山鹿市文化財調査報告書　第７集

方保田東原遺跡 10

平成16年度国庫補助事業　遺跡内容確認調査報告書

2008

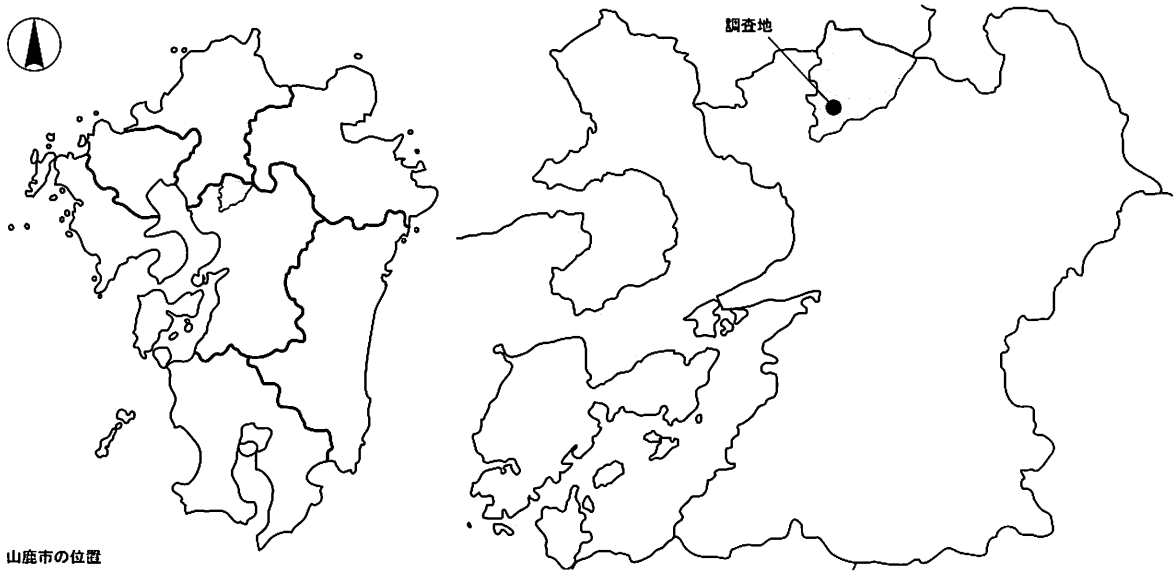
山鹿市教育委員会

山鹿市文化財調査報告書　第７集

方保田東原遺跡 10

かとうだひがしばる

平成16年度国庫補助事業　遺跡内容確認調査報告書



2008

山鹿市教育委員会

序　文

方保田東原遺跡は、弥生時代の中九州を代表する大集落遺跡として、昭和60年に国の史跡として指定されました。山鹿市教育委員会では、遺跡のさらなる保護を目的として、国および県の補助を受け平成８年度から範囲確認ならびに内容確認調査を実施し、その成果に基づいて平成18年度に追加指定されたところです。

本書は、このうち平成16年度の遺跡内容確認調査の成果をまとめたものです。この報告書が、埋蔵文化財の保護に対する理解を深め、学術研究の進展に少しでも寄与するならば幸甚に存じます。

なお、本調査を実施するにあたり、調査検討委員会として多年にわたりご指導を賜りました小田先生、甲元先生、高島先生、禰冝田文化財調査官をはじめ文化庁、熊本県文化課の各位、さらに文化財保護に理解を頂き、多大な御協力を賜りました地元地権者に、深く感謝申し上げます。

山鹿市教育委員会

教育長　田　中　　宏

例　言

1　本書は、下記についての埋蔵文化財発掘調査報告書である。

　　1．遺 跡 名　方保田東原（かとうだひがしばる）遺跡（熊本県遺跡番号208-179）

　　2．調 査 地　53次調査　熊本県山鹿市方保田字東原35番地

　　54次調査　熊本県山鹿市方保田字東原41番地１

　　3．調査原因　遺跡内容確認調査（国庫補助事業）

　　4．調査期間　第53次調査　平成16年10月５日～12月27日

　　第54次調査　平成16年11月９日～12月27日

　　整 理 調 査　平成16年11月～平成20年３月、出土文化財管理センターにて

2　基準点測量を有限会社遺跡整備計画に、空中写真撮影を有限会社スカイサーベイ九州に委託した。

3　本書の執筆編集は、宮崎が行った。

4　調査で出土した遺物および作成した図面・写真等は、すべて山鹿市出土文化財管理センターで保管している。
（〒861-0382　熊本県山鹿市方保田128番地・電話0968-46-5512）

5　本書で用いた標高はT.P.（東京湾平均海面高度）である。方位は世界測地系に基づく。

6　本書に掲載した地図は「山鹿市都市計画図１：2,500」平成14年、「山鹿市全図　１：25,000」平成16年の一部を調整したものである。

7　本書に掲載した遺構実測図の縮尺は１：20・１：50、遺物実測図の縮尺は１：１・１：２・１：４を基本とする。各実測図にはスケールを付した。

8　遺構は検出順に番号をつけ、性格を表す記号をつけた。ＳＤ；溝、ＳＨ；竪穴住居、ＳＫ；土坑、ＳＸ；落ち込み。

9　出土した赤色顔料付着遺物の顔料については、ベンガラと水銀朱を肉眼で判断した。今後理化学的な測定で結果が変更される可能性がある。

本文目次

序文
例言
目次

第１章　調査の経過
　第１節　調査の経緯…… 1
　第２節　位置と環境…… 1
　第３節　調査の方法…… 3
　第４節　調査の経過…… 4
　第５節　法令等の手続き…… 5

第２章　53次調査の成果
　第１節　グリッドの設定…… 6
　第２節　層序…… 6
　第３節　遺構と遺物…… 6

第３章　54次調査の成果
　第１節　グリッドの設定…… 20
　第２節　層序…… 20
　第３節　遺構と遺物…… 20

挿図目次

第１図　方保田東原遺跡の位置…… 1
第２図　調査区の位置…… 2
第３図　調査区の配置と周辺の調査…… 3
第４図　53次調査　遺構配置…… 7
第５図　53次調査　土層断面…… 8
第６図　53次調査　１・２号住居…… 9
第７図　53次調査　１・２号住居出土遺物…… 10
第８図　53次調査　２号住居出土遺物…… 11
第９図　53次調査　３・４・６・７・８号住居… 12
第10図　53次調査　５号住居…… 13
第11図　53次調査　６・７・８号住居出土遺物… 14
第12図　53次調査　９号住居と出土遺物…… 15
第13図　53次調査
　10号住居・土坑SK-69と出土遺物 …… 16
第14図　53次調査　落ち込みSX-77出土遺物 …… 17
第15図　53次調査　遺構外出土遺物…… 18
第16図　53次調査　鉄製品…… 19
第17図　54次調査　遺構配置…… 20
第18図　54次調査　土層断面…… 21
第19図　54次調査　１号住居と出土遺物…… 22
第20図　54次調査　２号住居と出土遺物…… 23
第21図　54次調査　３・４号住居と出土遺物…… 23
第22図　54次調査
　土坑SK-10（甕棺）・集石遺構 …… 24
第23図　54次調査　土坑SK-７ …… 25
第24図　54次調査　遺構外出土遺物…… 26

表 目 次

表１　周辺の調査…… 3
表２　方保田東原遺跡　報告書一覧…… 5
表３　53次調査　遺物観察表…… 27
表４　53次調査　遺物観察表…… 28
表５　53次調査　遺物観察表…… 29
表６　53・54次調査　遺物観察表…… 30
表７　54次調査　遺物観察表…… 31
表８　53・54次調査　遺物観察表…… 32

写 真 目 次

写真１　調査風景…… 4
写真２　市民見学会…… 5
写真３　土坑SK-10（甕棺）の掘削 …… 5
写真４　調査風景…… 6
写真５　53次調査　鉄製品…… 19
写真６　53・54次調査　赤色顔料付着遺物…… 25

写 真 図 版

図版１　調査地全景
　調査地遠景（南から撮影）
　調査地全景
　（右：53次調査区　左：54次調査区）
図版２　53次調査　遺構
　調査区全景（南西から）
　調査区全景（南から）
図版３　53次調査　遺構
　２・３区（東から）
　調査区全景（北から）
図版４　53次調査　遺構
　調査区西壁（北東から）
　B-４区２号住居　遺物出土状況（東から）
　A-４区土坑SK-69（東から）
図版５　54次調査　遺構
　調査区全景（南から）
　１・２区（南東から）
図版６　54次調査　遺構
　A区１号住居（東から）
　C区３・４号住居（南東から）
　B区土坑SK-10（甕棺）（北から）
　A区集石遺構（東から）
図版７　53次調査　遺物（２号住居）
図版８　53・54次調査　遺物

第１章　調査の経過

第１節　調査の経緯

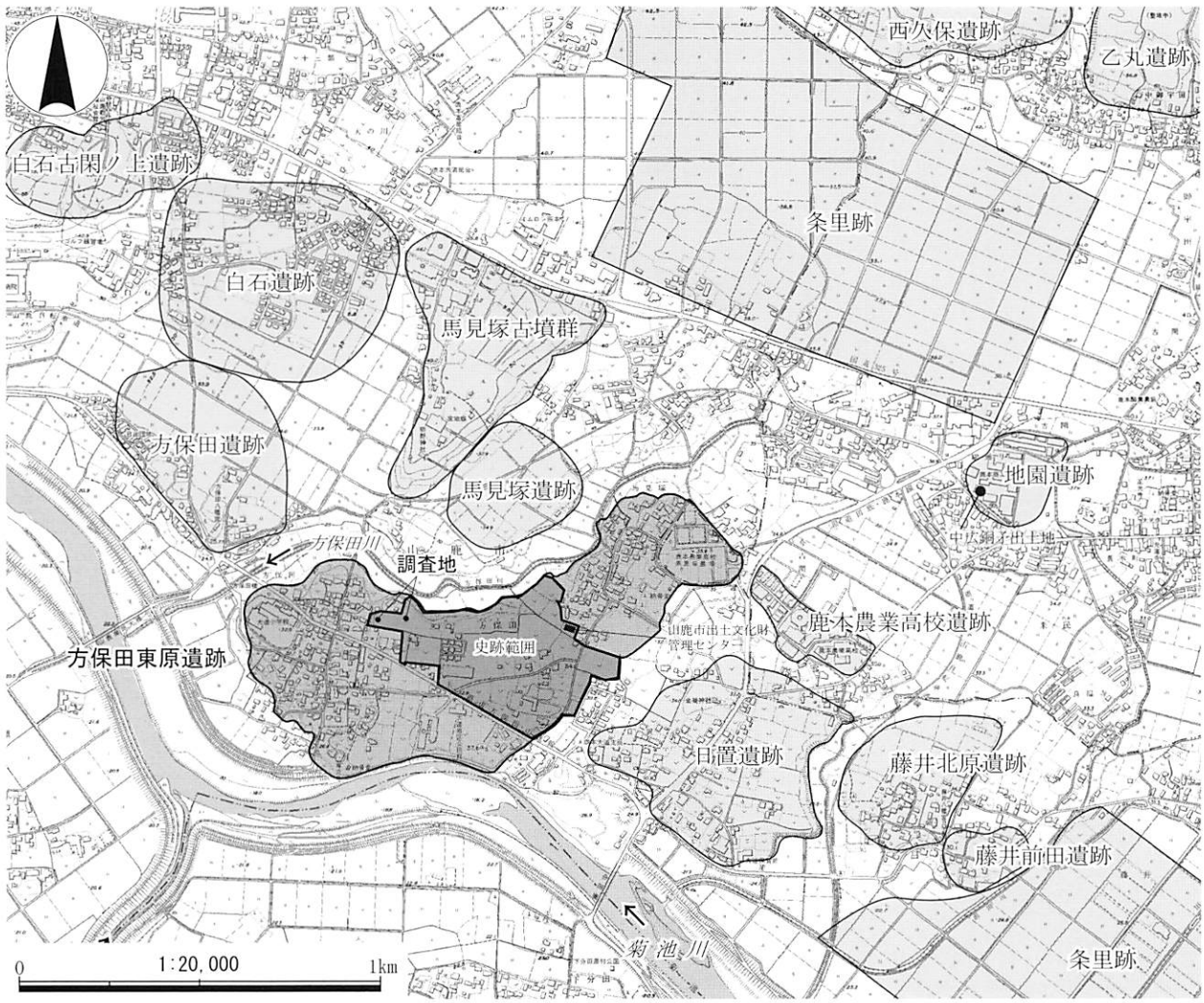
方保田東原遺跡は昭和60年に国史跡に指定され、以後断続的に山鹿市教育委員会が発掘調査を実施してきた。平成８年度より国・県の補助を受けながら遺跡範囲確認調査を実施し、全体の面積が35haに及ぶ大集落遺跡であることが判明した。調査は遺構存在を確認するためのトレンチ調査が主体であり、調査区幅が２～４ｍ程度と狭く、性格を把握できない遺構が多かった。このため、面的な調査によって遺構の内容を把握することを目的として、平成13年度から16年度にかけて内容確認調査を実施した。これらの調査によって、多数の住居や溝などの遺構が検出され、多量の土器や金属製品など貴重な遺物が出土した。

山鹿市ではこれらの調査成果に基づき、遺跡保護が必要な範囲について史跡の追加指定を申請し、平成18年７月28日付け文部科学省告示第118号で周辺地区が史跡に追加指定された。指定面積は80,209.29㎡である。昭和60年指定面積との合計は106,905.23㎡となる。

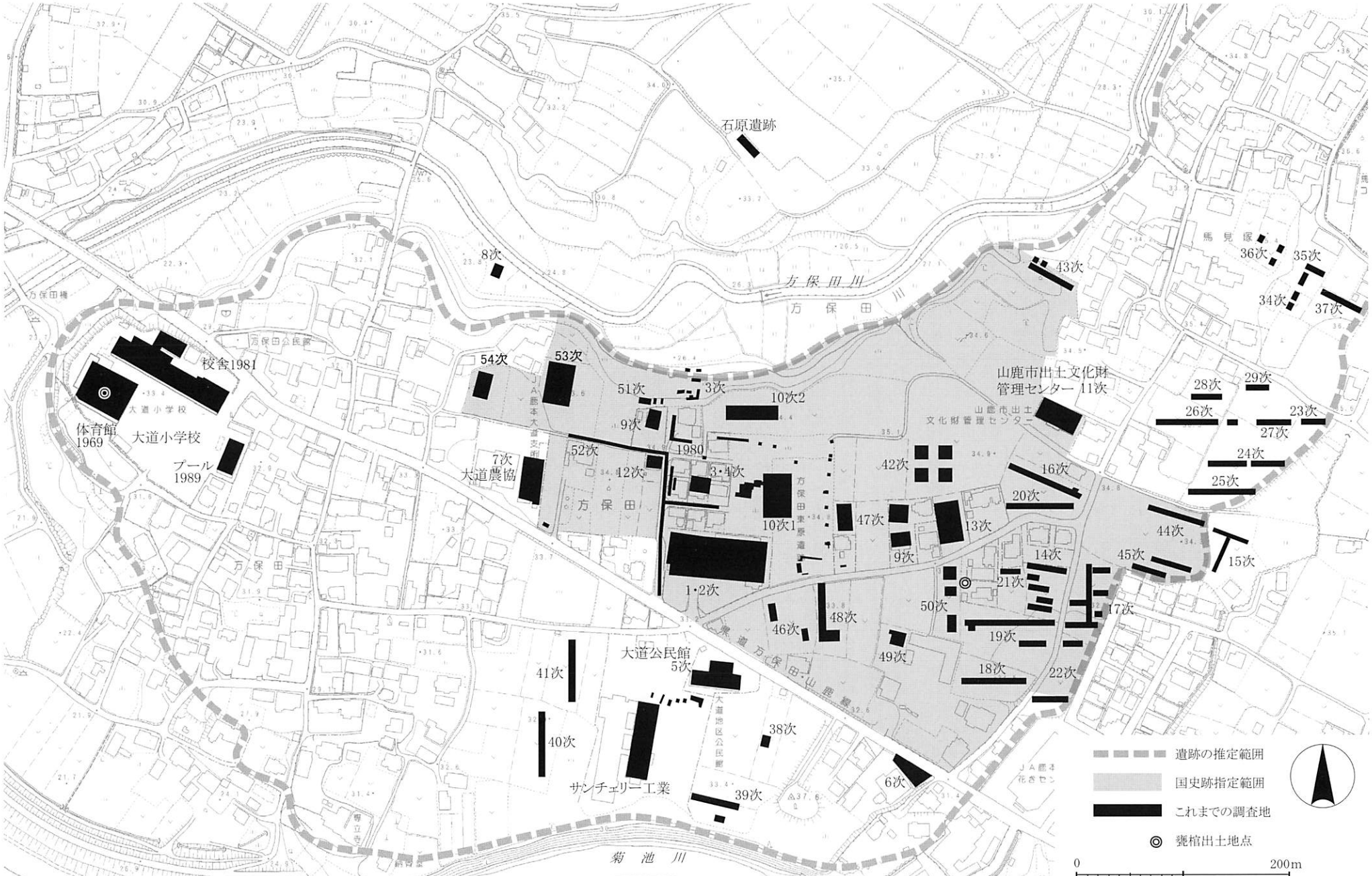
第２節　位置と環境

平成16年度は二箇所で調査を実施した。調査地は遺跡の北縁、方保田川に接する台地の縁辺近くに位置する。ともに畑として利用されていて、両調査区の間隔は東西で約60ｍである。

周辺では南側で７次、東側で９・12・51・52次、北側の方保田川近くの低地では８次調査が実施されている（表１）。平成８年度以降の範囲確認調査では、遺跡推定範囲の東側で重点的に調査を実施していたため、今回の調査地周辺は調査事例に乏しく、この地域の遺構内容を確認する目的で対象地を選定した。なお、遺跡における地理的・歴史的環境およびこれまでの調査内容については、既刊報告書を参照されたい（表２）。



第１図　方保田東原遺跡の位置


石原遺跡
方保田川
方保田
菊池川
校舎1981
体育館
1969
大道小学校
プール
1989
7次
大道農協
54次
53次
51次
3次
10次2
9次
52次
1980
42次
3・4次
10次1
1・2次
方保田東原遺跡
大道公民館
5次
41次
40次
サンチェリー工業
39次
38次
6次
46次
48次
49次
50次
47次
9次
13次
42次
16次
20次
14次
21次
19次
18次
22次
17次
45次
44次
15次
43次
山鹿市出土文化財
管理センター 11次
28次
29次
26次
23次
27次
24次
25次
36次
35次
34次
37次
遺跡の推定範囲
国史跡指定範囲
これまでの調査地
甕棺出土地点
0
200m

第２図　調査区の位置

第３節　調査の方法

①調査の体制（役職は調査当時・敬称略）

主　　体　山鹿市教育委員会
責 任 者　田中　　宏（市教育長）
総　　括　中村幸史郎
（博物館首席研究員兼文化財調査係長）
調査指導　小田富士雄（福岡大学）、甲元眞之（熊本大学）、高島忠平（佐賀女子短大）、禰冝田桂男（文化庁記念物課）、西住欣一郎・木村元浩（熊本県教育庁文化課）、隈　昭志（博物館館長）
調査担当　宮崎　歩（博物館研究員）
事 務 局　木村理郎（文化課長）、山口健剛（博物館研究員）
現地作業員　井口計介、岩本正美、王丸ゆかり、垣田菜美、佐藤昭三、田上亜紀、築嶋節子、冨田スミ子、平尾トシ子、平尾直孝、堀京之助、宮崎喜久男、若杉清美、若杉敬子
整理作業補助員　前田軍治、野満彩子（教育委員会嘱託）

第３図　調査区の配置と周辺の調査

調査次数（地番）	調査年度	調査原因・目的	調査成果	掲載報告書
７次（63番地）	1984	農協建設	住居、溝。石包丁形鉄製品	市博報告第７集、1987
８次（1554番地）	1990	水田遺構確認	墨書土器、木製品	市博報告第11集、1991
９次（32-2番地ほか）	1991	個人住宅建設	住居、溝	市博報告第12集、1992
12次（84-3番地）	1996	個人住宅建設	住居、溝。鉄器多数	市博報告第14集、2001
51次（30番地ほか）	2003	遺跡内容確認	溝	文化財報告第４集、2007
52次（87-6番地ほか）	2004	下水道建設	住居、溝	作成中

表１　周辺の調査

整理作業員　生島統夫、大森よう子、小原朱実、古閑美奈、城　葉子、渕上厚子、森みつよ、山口美智子、渡邊　晃

調査協力　上野啓之、奥村康喜、村上カツ子（地権者）、鹿本農業協同組合（ＪＡ鹿本大道支所）

②調査の方針

調査に際しては遺構内容の確認を目的とするため、検出にとどめて完掘していない。性格が不明な遺構や、時期把握が必要と判断した遺構についてはサブトレンチを設定し、一部を床面まで掘り下げたものもある。しかし、必要のない部分まで掘削が及んだ遺構や、検出に失敗して掘りすぎた遺構もある。これは担当者の遺構認識不足に起因するものであり、調査検討委員会や県文化課などの指導を仰いだ上で判断するべきであった。今後の調査にあたっての反省としたい。

③調査の方法

調査の名称は、調査次数（第53・54次）と番地（35・41-1番地）を併用した。調査地の形状と地形にあわせて、任意の方位で調査区を設定した。調査区の表土を重機によって掘削し、調査員が包含層の状態を確認しながら遺構面まで掘り下げた。その後、作業員によって遺構面を清掃し、遺構を検出した。検出状況の写真撮影と平板測量を実施し、平面で完全に検出できない遺構は、サブトレンチを掘削して断面でも確認した。遺構番号は検出順に設定し、記号をつけた。竪穴住居の番号は整理段階で新しく設定したものであるため、調査時の呼称とは異なっている。このため、整理調査段階で作業がやや混乱した。今後の反省点である。

遺構および遺構に伴う遺物の出土状況については十分の一もしくは二十分の一で図化し、標高を記録した。時期を特定するために取り上げた遺物以外は現地に埋め戻した。検出中に包含層から出土するなど遺構に伴わない遺物については地区と層位を確認して取り上げ、石器や鉄器などの特殊な遺物は平板で出土地点と標高を記録して取り上げた。写真機はカラーリバーサル・モノクロフィルムを使用し、基本的に35㎜フィルムカメラを、補助用としてデジタルカメラ、全体写真用として中型カメラを使用した。調査の最終段階に調査地周辺の環境を把握できるよう、ＲＣヘリによる空中写真撮影業務を委託した。調査区の位置をこれまでの調査成果と合わせるため、座標測量業務を委託した。

整理調査はまず遺物をすべて水洗・乾燥した。遺物量は内法54×34×15㎝のコンテナで30箱（53次：20箱、54次：10箱）である。遺物は調査員が選別し、遺構の時期を示すもの、特徴的なものを中心に選別し、注記後接合した。実測は作業員が中心に行い、適宜担当者が確認した。鉄器については担当者が実測した。印刷仕上がりの二倍サイズに実測図を縮小し、ロットリングペンでトレースした。一部の図面はデジタルトレースによる。遺物写真はデジタルカメラを使用して担当者が撮影した。整理作業の終了した遺物や実測図・写真類は、出土文化財管理センターで保管している。

今回の報告では、担当者の力量不足と紙数の制限等により、十分まとめることができなかった。甕棺や赤色顔料付着土器について、これまでの事例とあわせて検討する必要がある。また、今後の遺跡保護と活用のためにも、数十次に及ぶ調査成果の意義について遺構・遺物の総合的検討が課題であろう。

第４節　調査の経過

平成16（2004）年

10/5～　53次：調査区設定。重機掘削、0.2級バックホーおよびキャリー各1.0台日。機材搬入、遺構検出開始。ガラス玉1点。

10/12～　遺構検出、C-1区にサブトレンチ。袋状鉄斧・ヤリガンナ、石包丁１。古代の土器も多い。

10/18～　遺構検出。北壁・南壁断面写真撮影、実測。各所でサブトレンチ設定。

10/25～　遺構検出、秋の長雨ではかどらない。シートで遺構面を保護すると排水に時間がかかる。

11/1～　全景写真、断面撮影。実測開始。

11/8～　平・断面図実測。

11/15～　排水、実測。教育長来訪。排出土よりガ

写真１　調査風景

ラス玉１点。

11/17～　54次調査の重機掘削、0.2級バックホーおよびキャリー各1.0台日。遺構検出。滑石製石鍋。

11/22～　53次：実測、レベル測定、土器取り上げ。54次：検出写真撮影、サブトレンチ設定・掘削。

11/29～　54次：遺構検出、西壁・南壁の写真撮影と実測。現地にて記者発表、TV2社・新聞５社。タイミング悪くその翌日に土坑10がサブトレンチ掘削により甕棺と判明出土。山下文化財保護委員長来訪。

12/5　現地説明会。前日の降雨で現地はかなり湿っているが、シートをかぶせていなかったため水はたまっていない。案内看板設置、受付設営、遺構表示、遺物展示。10時～3時で81名参加。

12/6～　53次：B-1・C-1区包含層掘削。54次：甕棺掘削・写真撮影・実測。ラジコンヘリによる空中写真撮影。鹿本町立来民小学校探検クラブ10名。市議会文教厚生委員23名。

12/14～　54次：甕棺取り上げ。文化庁より禰冝田文化財調査官、調査指導。

12/20～　甲元熊本大学教授・高島佐賀女子短大学長・小田福岡大学教授による調査指導。ご指導を受け、54次：集石遺構について再検討するも判断できず。埋め戻し、機材撤収。現地調査終了。

第５節　法令等の手続き

今回の調査における文化財保護法および遺失物法等の規定に基づく手続きは以下のとおり。

発掘調査の通知：（53次）16.9.29山博Ｍ８-40号
→16.10.13教文第1876号
（54次）16.10.28山博Ｍ８-48号
→16.11.22教文第2274号

結　果　報　告：16.12.27 山博Ｍ８-55号
実　績　報　告：17. 3.31 山文Ｍ８-87号
発見届・保管証：16.12.27 山博Ｍ８-56号
文 化 財 認 定：17. 1.21 教文第2838号
譲　与　申　請：17. 7.19 山文Ｍ８-39号
譲　与　通　知：17. 8. 3 教文第1177号

写真２　市民見学会

写真３　土坑SK-10（甕棺）の掘削

書名	シリーズ名・番号	発行年	内容
方保田東原遺跡	山鹿市立博物館調査報告書第２集	1982	昭和 47・49・56（１～３次）範囲確認
方保田東原遺跡（２）	山鹿市立博物館調査報告書第３・４集	1984	昭和 56・57 年度（５次）小学校・公民館
方保田東原遺跡（３）	山鹿市立博物館調査報告書第７集	1987	昭和 59 年度（７次）事務所改築
市内遺跡確認調査報告書	山鹿市立博物館調査報告書第 11 集	1991	平成２年度（８次）水田遺構確認
市内遺跡確認調査	山鹿市立博物館調査報告書第 12 集	1992	平成３年度（９次）個人住宅建設
方保田東原遺跡Ⅳ	山鹿市文化財調査報告書第 14 集	2001	平成 8～12 年度（13～41 次）範囲確認
方保田東原遺跡（５）	山鹿市文化財調査報告書第 17 集	2004	平成 13 年度（42～45 次）内容確認
方保田東原遺跡（６）	山鹿市文化財調査報告書第 18 集	2005	平成 14 年度（46～48 次）調査概要
方保田東原遺跡（７）	山鹿市文化財調査報告書第２集	2006	平成４・10 年度　小学校改築
方保田東原遺跡（８）	山鹿市文化財調査報告書第４集	2007	平成 14・15 年度（46～51 次）内容確認

表２　方保田東原遺跡　報告書一覧

第２章　53次調査の成果

第１節　グリッドの設定

調査区は南北20m、東西15mの長方形で、５mごとにグリッドを設けた。グリッドの境界部分は幅60㎝として断面確認や通路に利用した。グリッド名称は調査区の西から東にＡ・Ｂ・C区、北から南に１・２・３・４区とした。北東端はC-１区、南西端はA-4区となる。調査面積は300㎡である。

第２節　層序（第５図・図版４）

調査地の標高は約33.75～34.1m、畑として利用されていたためほぼ平坦で、わずかに南西から北東方向に低くなる。地表面から0.6～0.75mの掘削で遺構検出面に達し、その標高は約33.0～34.1mであった。調査区の基本的な堆積は以下のとおり。

Ⅰ層（耕作土）厚さ20～30㎝　黒褐色砂質土

Ⅱ層（包含層）厚さ20～30㎝　黄褐色粘質土、土器を含み、しまらない

Ⅲ層（遺構埋土）暗褐色～黒褐色粘質土、地山起源のロームブロックを含み、しまらない

Ⅳ層（地山）黒褐色土・灰～黄褐色土、ややしまる

検出面と遺構埋土の色調が類似している上に樹根やモグラ穴などの撹乱が多かったため、遺構の検出は困難であった。土層のわずかな明暗や粘性、包含物の量によって判断したが、最終段階まで遺構判断に悩まされた調査であった。

第３節　遺構と遺物（第４図）

調査区の全体で竪穴住居13、土坑８、溝１、柱穴などを検出した。

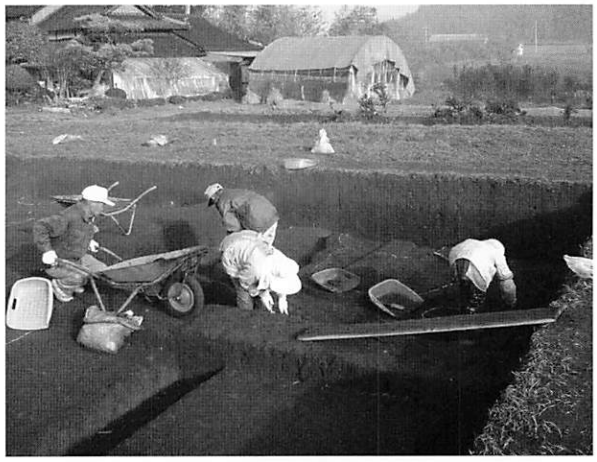


写真４　調査風景

①１号住居（第６・７図）

調査区南東端（C-４区）で北と西の一部を検出した。南と東側は調査区外へ続く。検出範囲ではおおむね方位に沿った配置のようである。南北３m以上、東西は3.6m以上。調査区周壁のサブトレンチを掘削し、深さ0.3mで地山に達している。床面は検出していない。検出中に若干の遺物が出土し、脚台付きの甕などがある。

②２号住居（第６～８図・図版３・４・７）

調査区南端（B-４区）で検出した。今回の調査で最大規模の住居である。C-４区に西辺があり、南は調査区外へ続く。北・西辺は調査区のベルト下にあり、周壁の部分のみを掘削して住居のラインを確認した。北辺は溝SD-78に掘り込まれる。東側の１号住居との距離は0.6m、接近した位置にある。全体を検出していないため主軸方向は不明であるが、東辺を見ると１号住居と同様の方位に沿った配置か。南北は４m以上、東西4.35m。

調査区周壁南側のサブトレンチを掘削し、深さを確認した。東は浅く（0.2m）、西が深い（0.35m）。サブトレンチ部分では底面が平坦ではなく、凹凸がある。床面は検出していない。

検出中に全体から土器などが多量に出土し、規模の大きい住居であることから、時期を確認するために遺物を取り上げた。

遺物は甕・壺・高杯・鉢・小型丸底壺などがあり、甕が多い。甕には頸部に刺突文を施す**6**・**18**と波状文を施す**8**・**11**がある。甕**6**の刺突文は縦に三個並べ、甕**18**は体部外周を四等分する等間隔の位置に一個ずつ施す。ヘラ状工具による波状文は、壺**22**の頸部にも施されているが、ごく浅い。

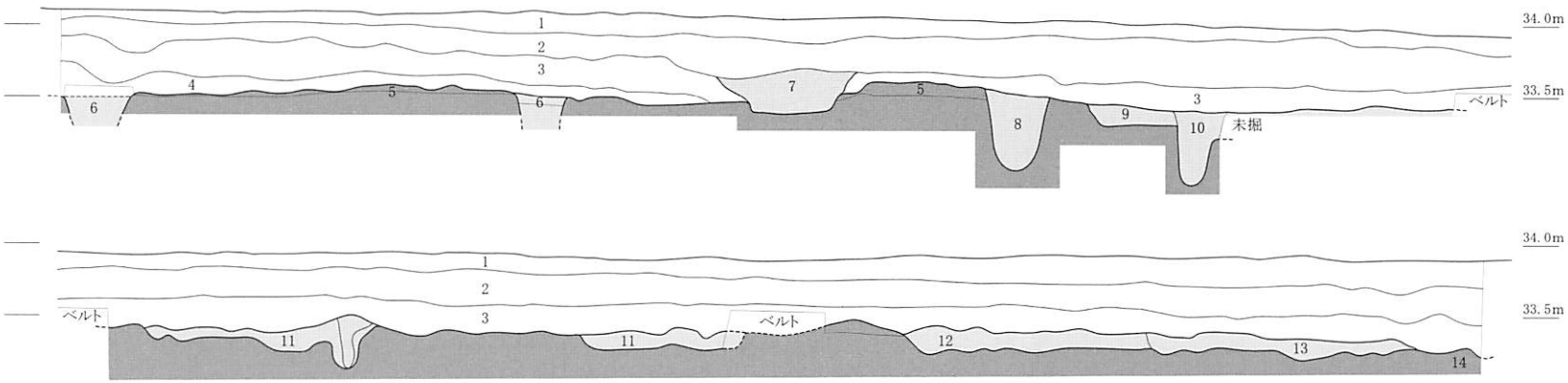
③３号住居（第９図）

調査区東部（C-３区）で一部を検出した。南側を土坑SK-82に、北側を６号住居に掘り込まれる。東は調査区外へ続く。主軸や規模は不明。検出規模は南北2.9m以上、東西2.1m以上。西辺ラインは直線的ではなく、緩やかなカーブであることから、土坑の可能性もある。調査区東壁のサブトレンチを掘削し、深さは0.15～0.2m程度。床面は検出していない。遺物は出土していない。台石と思われる石材（直径35×28㎝、厚さ15㎝）を一点検出したが、表面には打撃や擦痕などは確認できなかった。

第４図　53次調査　遺構配置

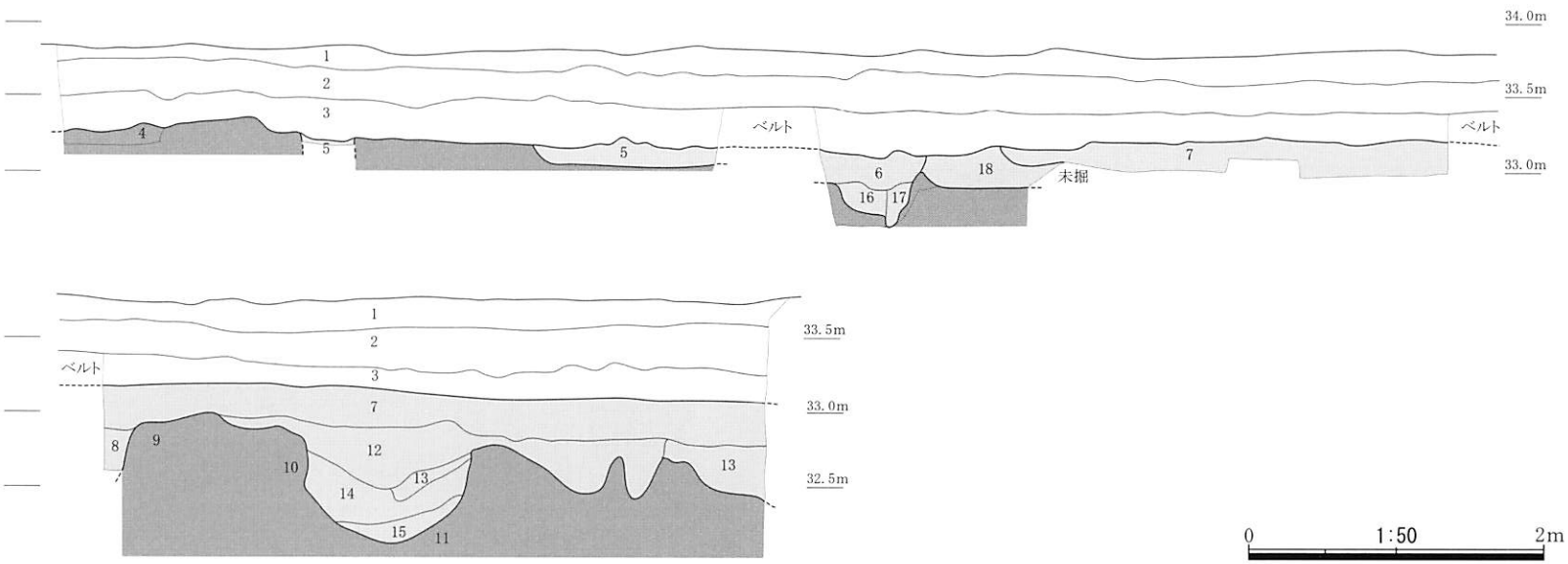
第5図　53次調査　土層断面

西壁断面



1.耕作土
2.床土
3.包含層
4.包含層
5.にぶい黄褐色土　しまらない(地山)
6.黒褐色土　しまらない
7.黒褐色土　しまる
8.黒褐色土　しまらない　地山ブロック少ない
9.黒褐色土　しまらない　地山ブロック多い
10.黒褐色土　しまらない
11.黒褐色土　しまらない　地山ブロック少ない
12.褐色土　地山ブロック含む
13.暗褐色土　地山ブロック含む
14.黄褐色土　ややしまる(地山)

北壁断面

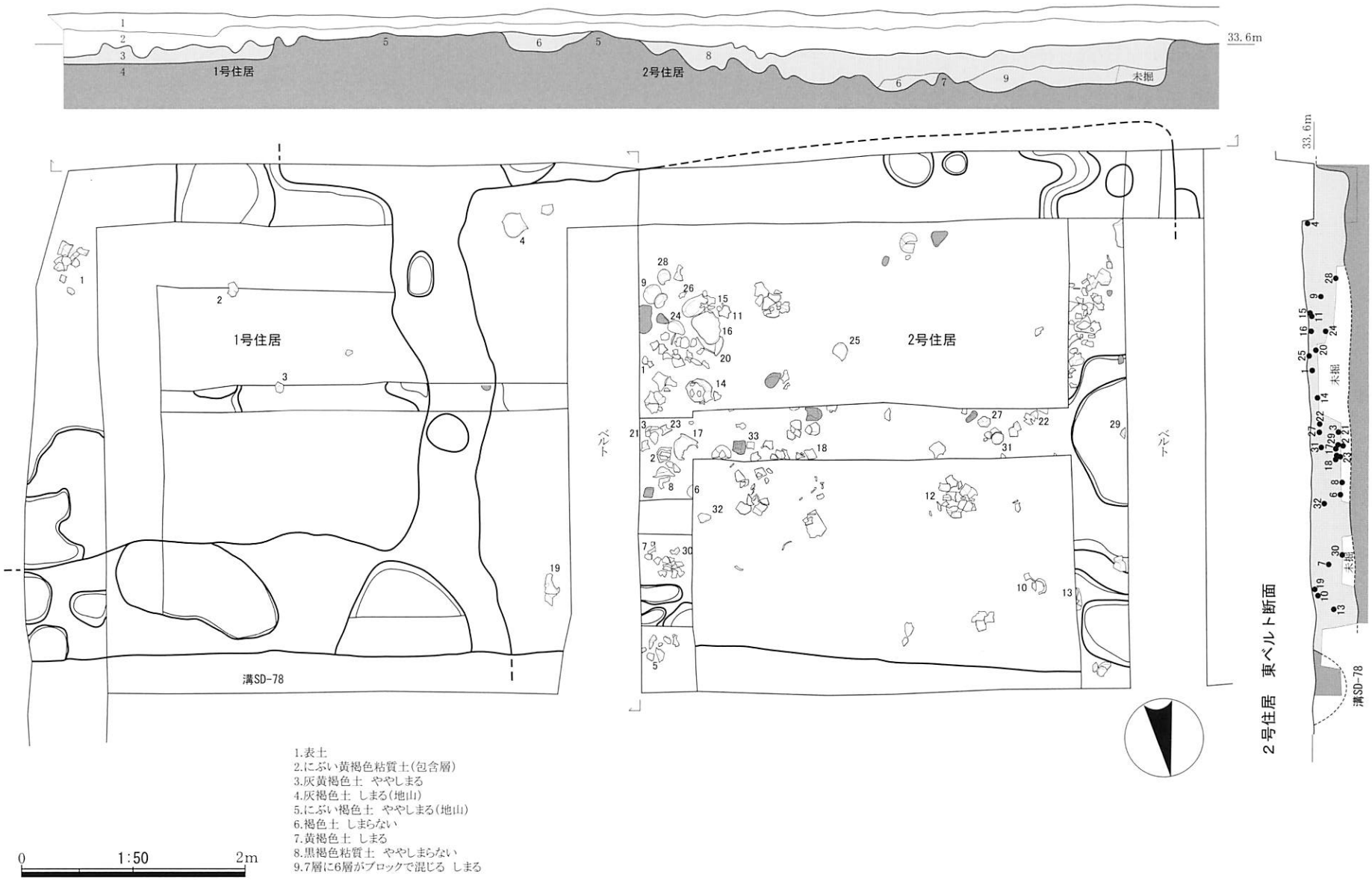


1.耕作土
2.包含層
3.暗褐色粘質土　ややしまる
4.黄褐色土　ややしまらない(地山)
5.にぶい黄褐色粘質土　地山ブロック多い
6.黒褐色粘質土　しまらない
7.暗褐色土　ややしまる
8.黒褐色土　しまらない
9.黒褐色土　ややしまる
10.黒褐色粘質土　しまる
11.にぶい黄橙色砂質土　しまらない
12.黒褐色粘質土　ややしまる
13.12層に地山ブロック含む
14.黒褐色粘質土
15.にぶい黄褐色土
16.6層に地山ブロック多く混じる　しまらない
17.6層に地山ブロック混じる　しまらない
18.褐色土　しまらない

0　1:50　2m

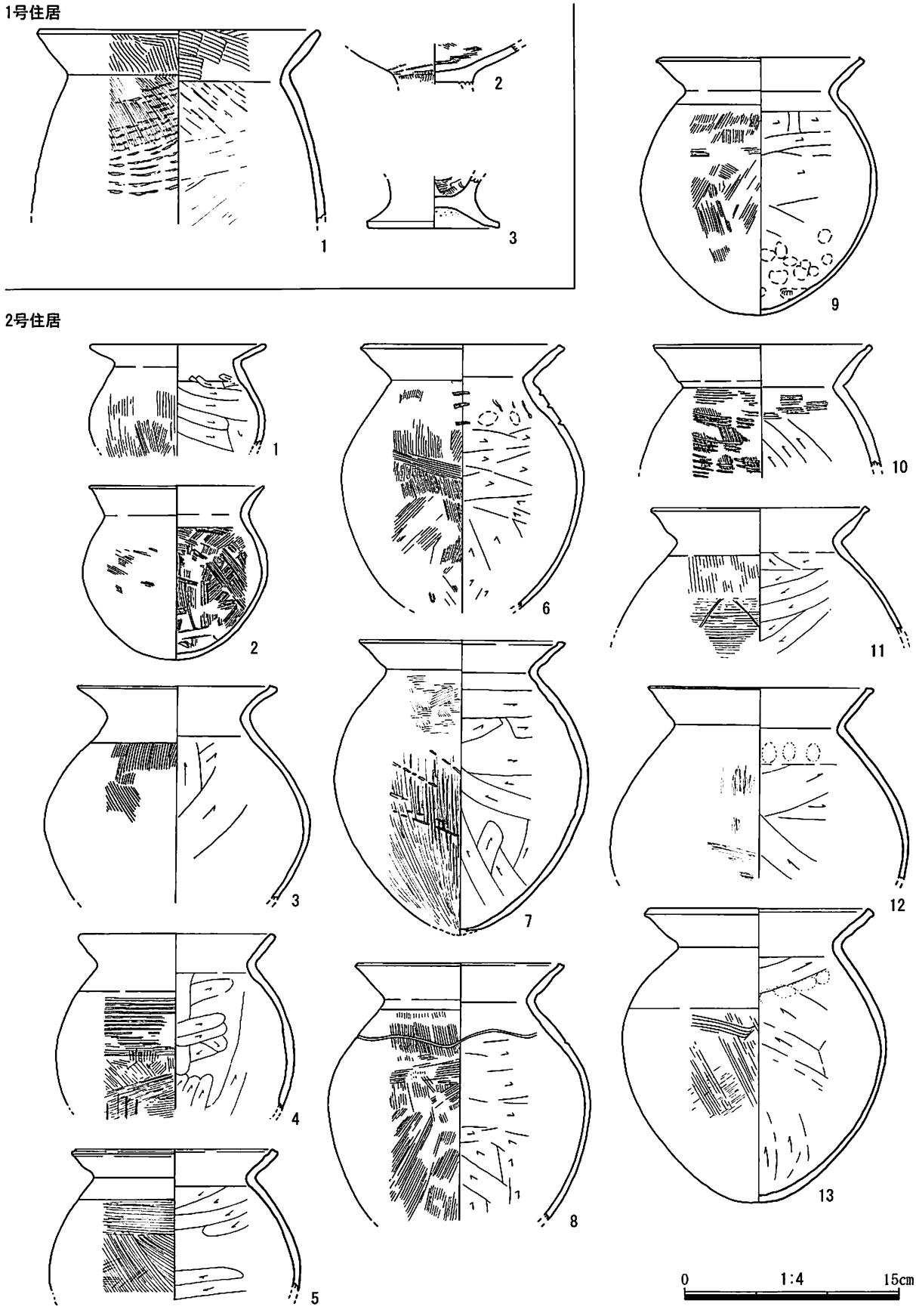
第6図　53次調査　1・2号住居

1・2号住居　南壁断面

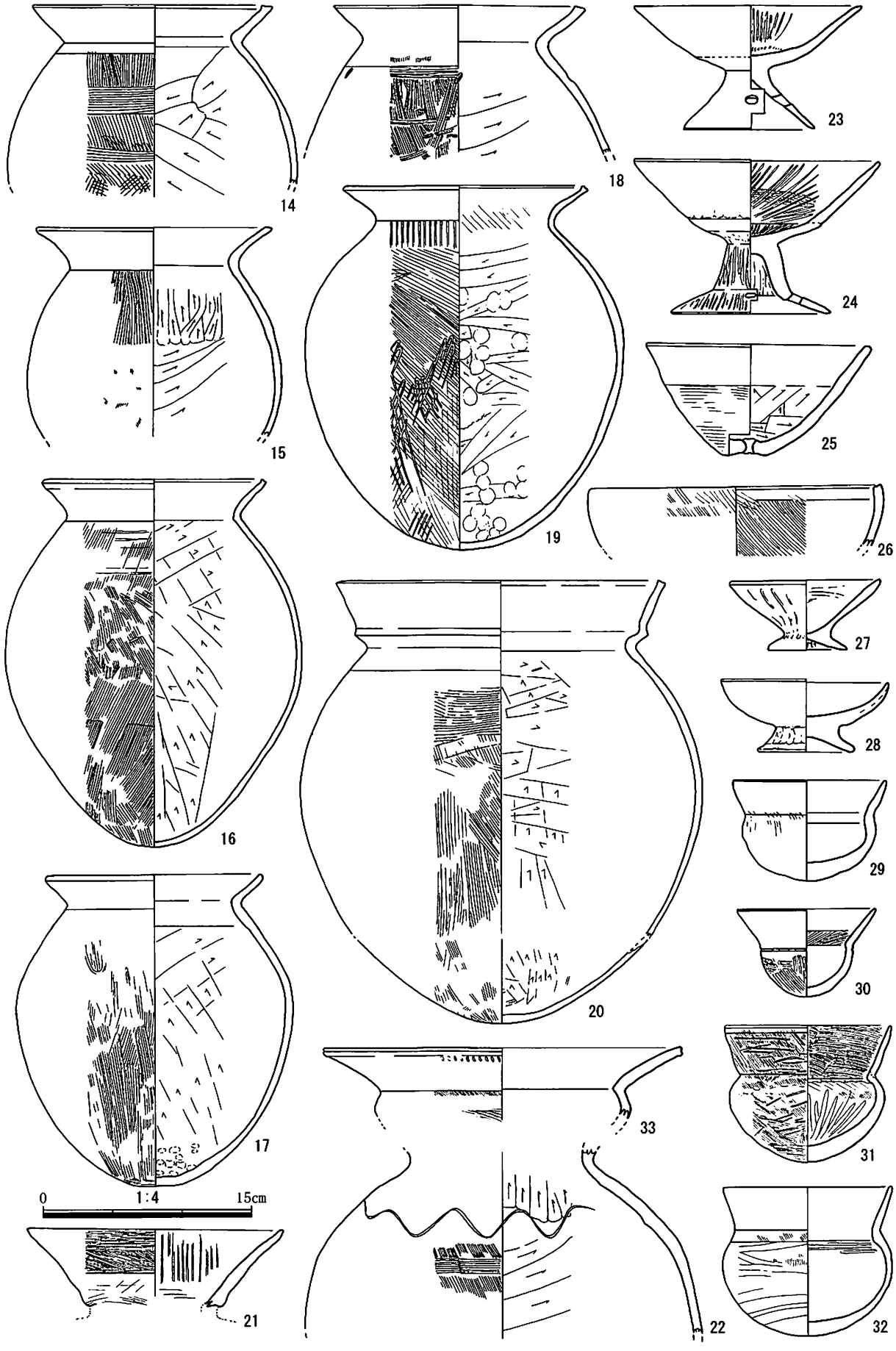


1.表土
2.にぶい黄褐色粘質土(包含層)
3.灰黄褐色土　ややしまる
4.灰褐色土　しまる(地山)
5.にぶい褐色土　ややしまる(地山)
6.褐色土　しまらない
7.黄褐色土　しまる
8.黒褐色粘質土　ややしまらない
9.7層に6層がブロックで混じる　しまる

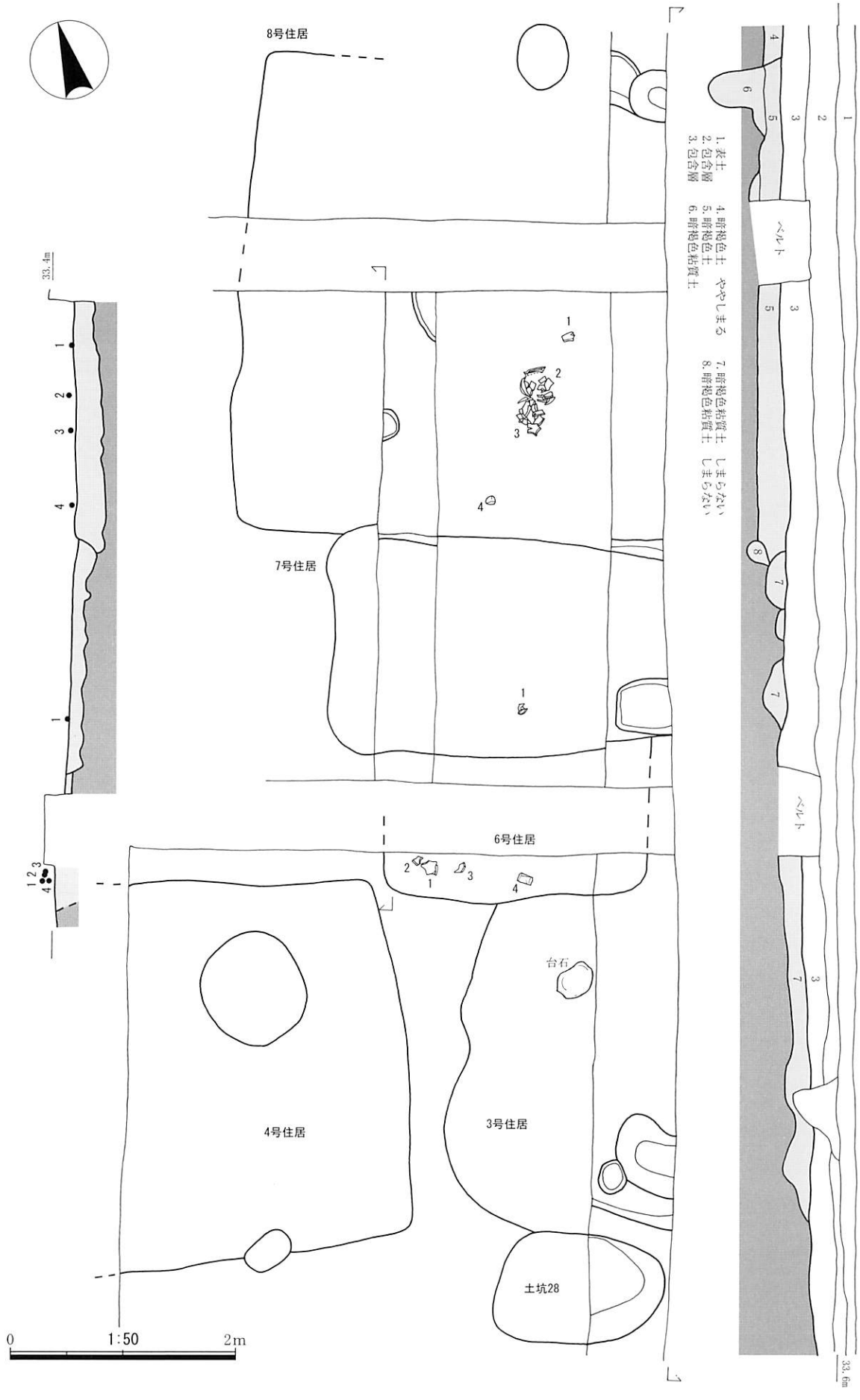
2号住居　東ベルト断面



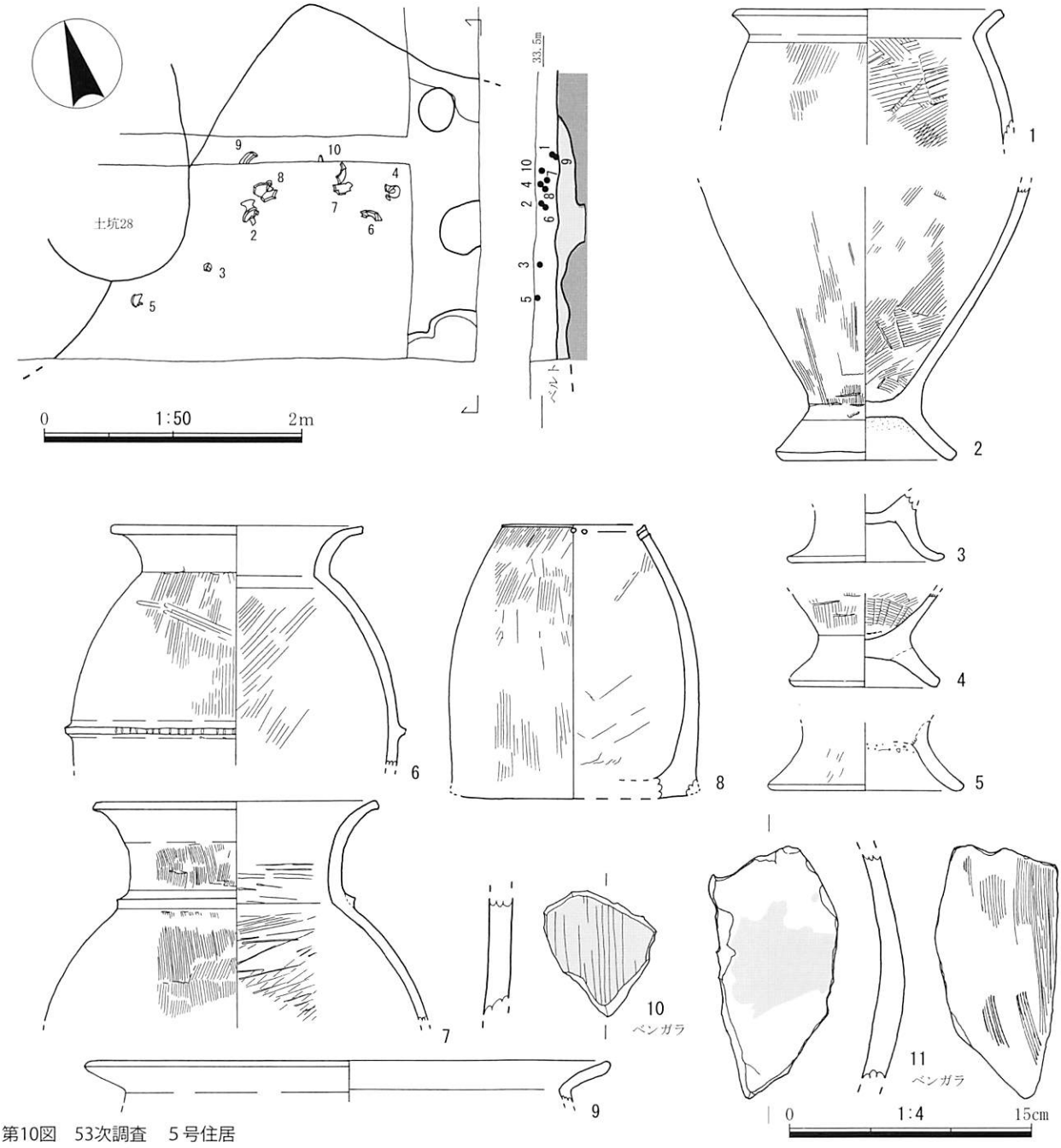
第７図　53次調査　１・２号住居出土遺物



第８図　53次調査　２号住居出土遺物



第9図　53次調査　3・4・6・7・8号住居



第10図　53次調査　５号住居

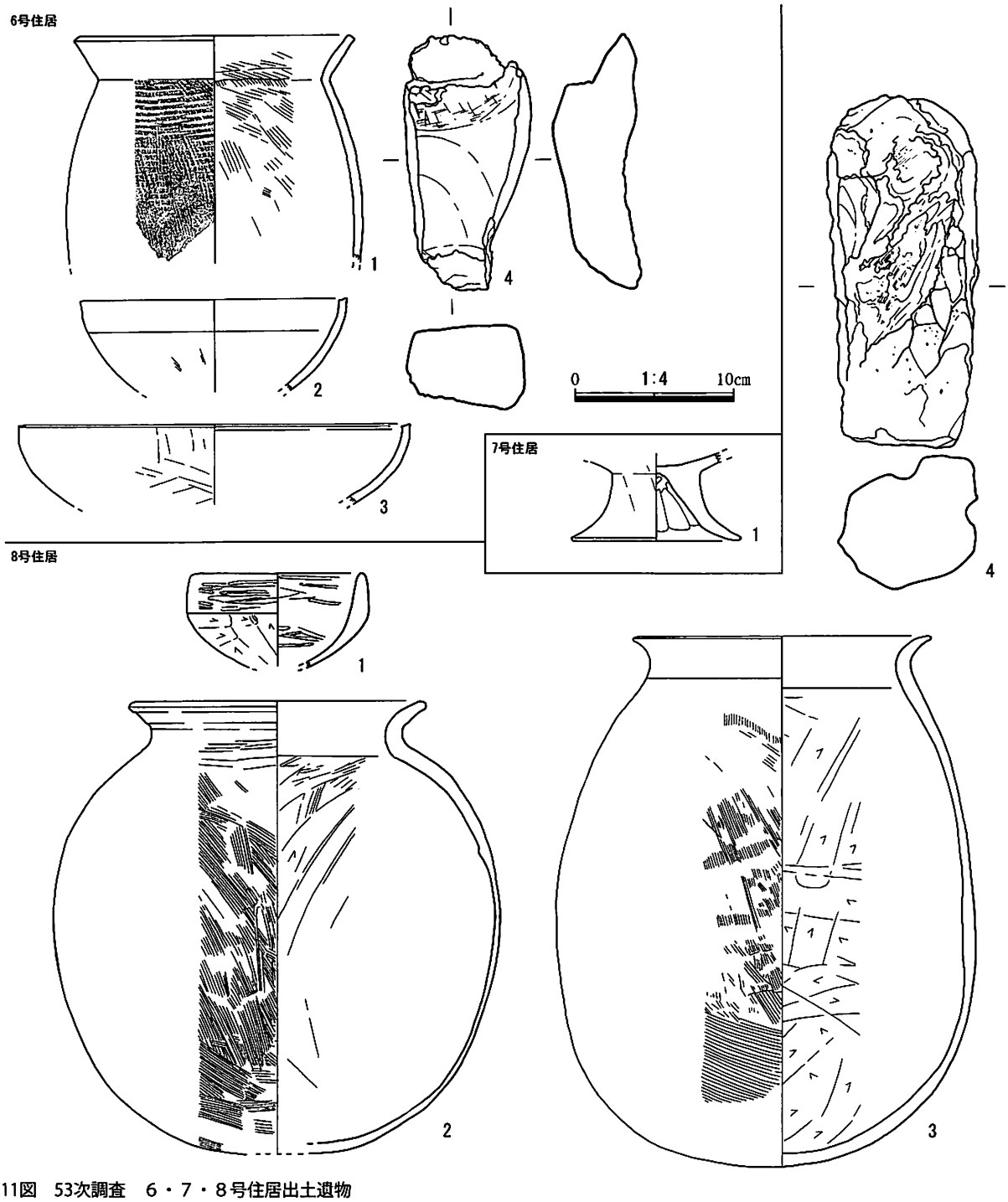
④４号住居（第９図）

調査区東部（C-３区）、３号住居の西側で一部を検出した。西側はベルト内にあり、検出していない。主軸は不明であるが、ほぼ方位に沿った配置である。南北3.2～3.4m、東西は2.6m以上。平面検出にとどめたため、深さは不明。中央付近で時期不明の円形土坑（0.95×1.0m）に掘り込まれる。住居から遺物は出土していない。床面も検出していない。

⑤５号住居（第10図）

調査区中央付近（B-３区）で一部を検出した。西辺を土坑SK-28に掘り込まれる。南側の２号住居、西側の４号住居・中世溝と切り合い関係があるはずだが、その部分がベルト内にあるため平面で検出していない。主軸は不明、検出した北西隅部分は方位から20度ほど振れている。規模も不明、検出範囲で南北2.5m以上、東西3.4m以上。東側のベルト部分でサブトレンチを掘削し、この部分の深さ0.15m。

遺物には脚台付の甕、突帯のある壺、赤色顔料付着土器などがある。赤色顔料はともにベンガラで、外面に付着する体部破片10と内面に付着する11がある。今年度の53・54次調査で出土した赤色顔料付着土器14点のうち、顔料が外面に付着するのは１点のみである。内面にベンガラのある体部破片11は付着したというより塗りつけたようにも見える。器種不明の土器8は在地の器形にない搬入品。北部九州系か。底部



第11図　53次調査　6・7・8号住居出土遺物

外縁は欠損するがわずかにふくらむようである。口縁近くに穿孔が二個ある。孔はどちらも焼成前、外面から内面に向けて開けられている。口縁の他の箇所にも穿孔されていたかは不明。

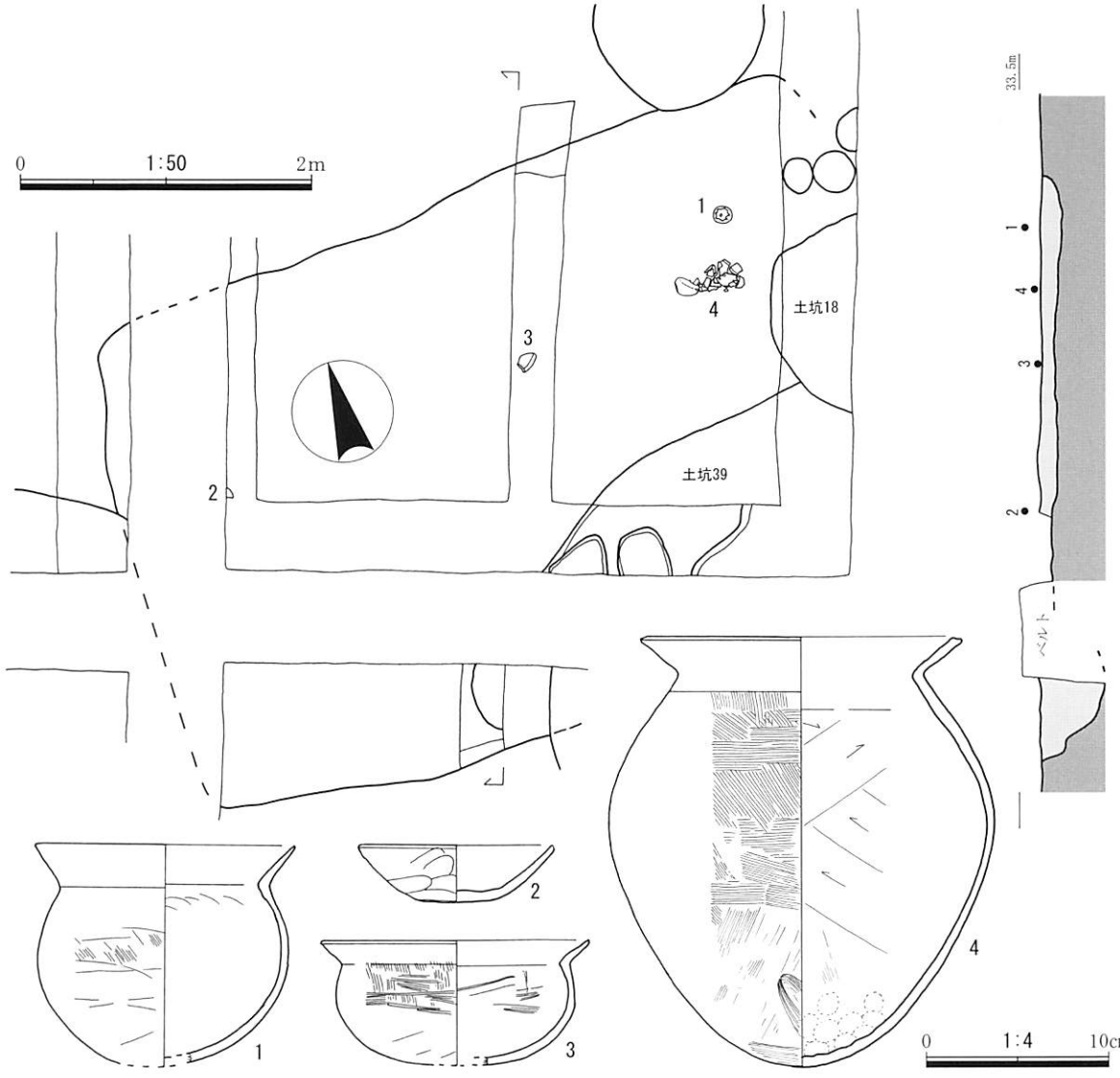
⑥6号住居（第9・11図）

調査区東部（C-3区）でごく一部を検出した。南側の3号住居を掘り込み、北側の7号住居に掘り込まれる。主軸は不明だが、ほぼ方位に沿った配置。東辺の検出に失敗し、調査区東壁のサブトレンチを掘削してしまった。東壁の断面では6号住居の埋土を検出していないので、東西は2.6m以内である。

遺物は少量で、甕、鉢、砥石がある。砥石4は三面を使用している。

⑦7号住居（第9・11図）

調査区東部（C-2区）で一部を検出した。南側の6号住居、北側の8号住居を掘り込む。東側は調査区外へ続く。主軸は東西方向で、ほぼ方位に沿った配置である。平面は長方形で東西が長辺となり2.9m以上、南北が短辺で2m。深さは東壁サブトレンチ部分で0.2m程度。底面は平坦ではない。検出中にごく少



第12図　53次調査　９号住居と出土遺物

量の土器が出土した。図示したのは古代の台杯鉢の脚台部。

⑧８号住居（第９・11図）

調査区東部（C-２）区で一部を検出した。南側を７号住居に、北側を落ち込みに掘り込まれる。東は調査区外へ続く。主軸は不明、配置は７号住居と同様、ほぼ方位に沿う。南北4.2m、東西3.8m以上。深さは東壁サブトレンチ部分で0.3m程度。検出中に古代の土器が出土した。

遺物は甕、鉢、軽石製支柱がある。支柱4は熱を受けた痕跡が見られない。底部を平坦に、全体を円柱状に加工する。同様の支柱が落ち込みSX-77からも出土している（第15図16）。類似する遺物はこれまで方保田東原遺跡で出土していないが、遺跡では確認調査が主であり、住居址の完掘事例に乏しいことによるのであろう。

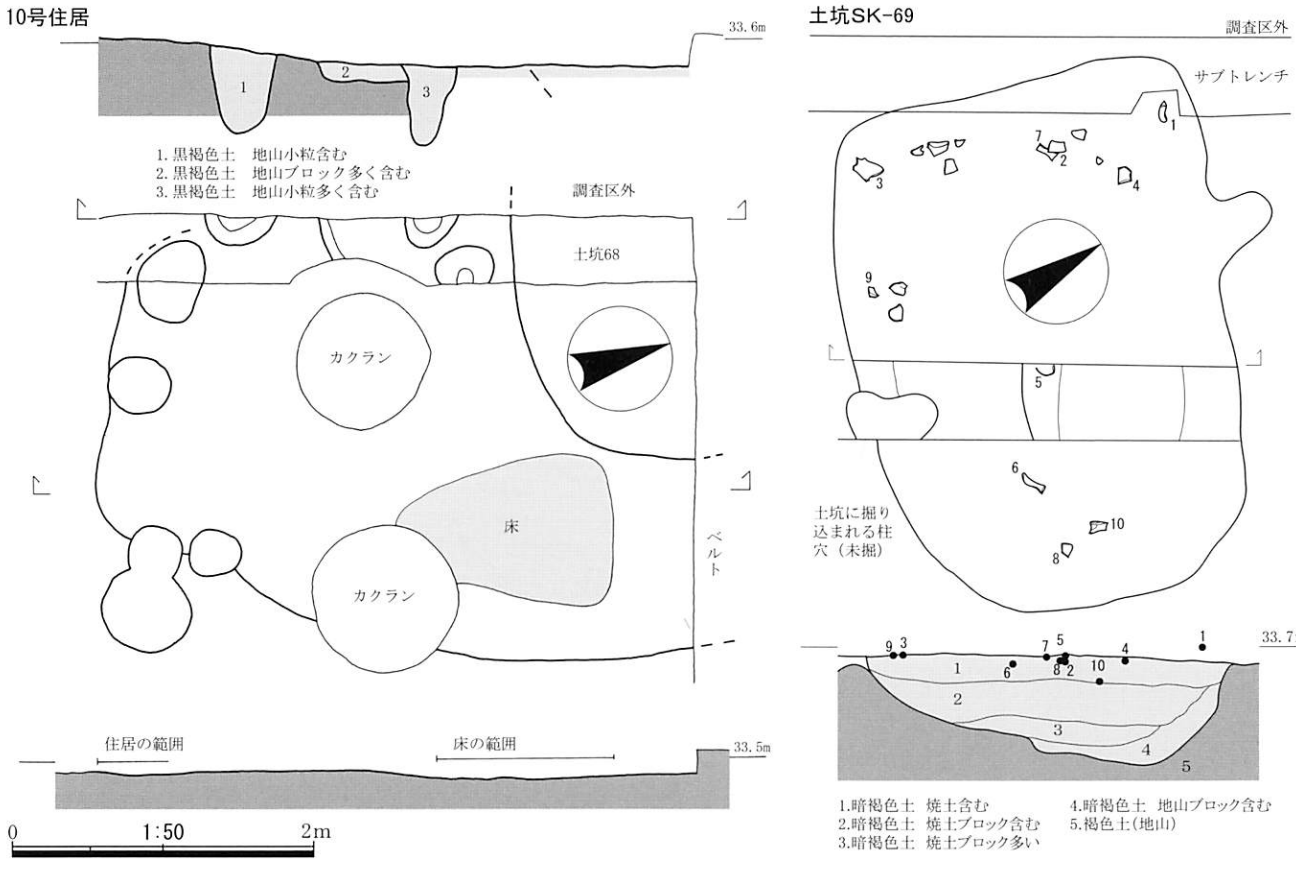
⑨９号住居（第12図）

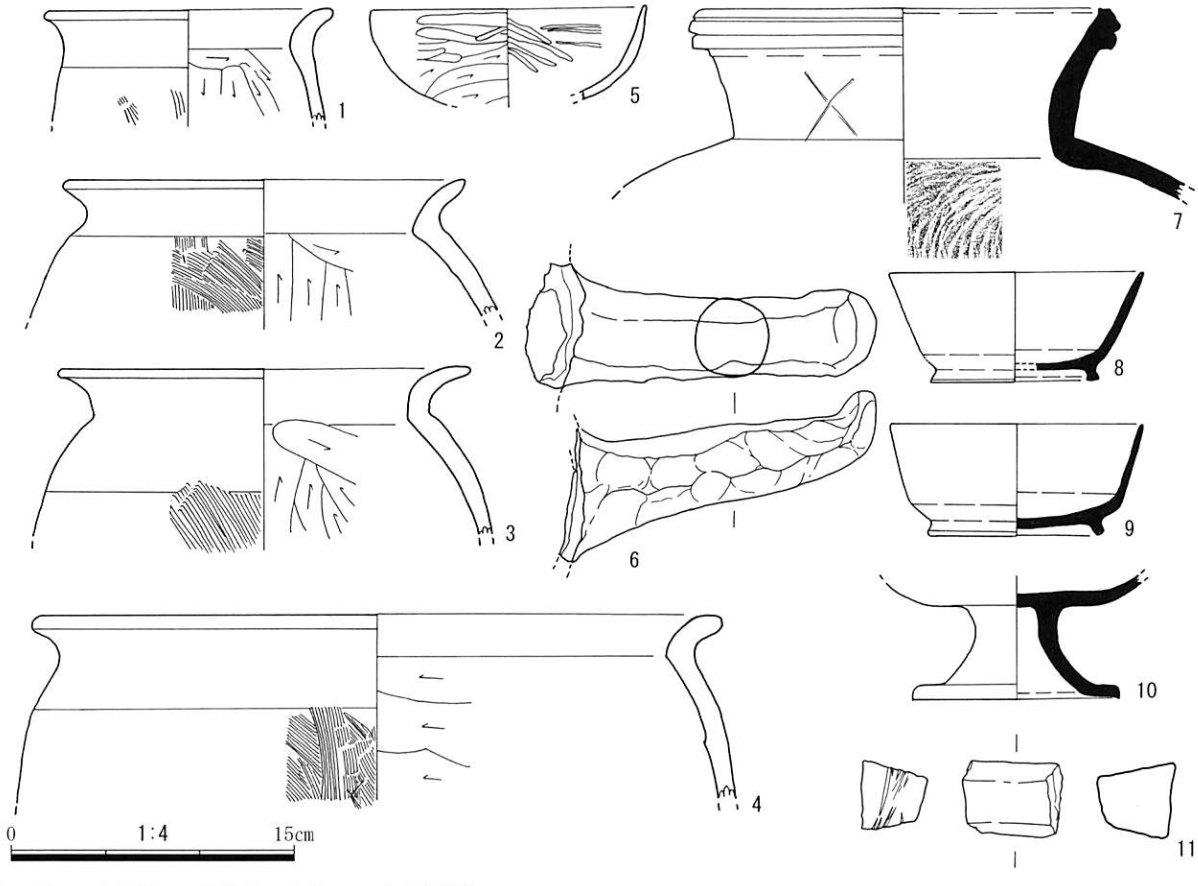
調査区中央（B-２・３区）で一部を検出した。北側は土坑SK-67に、南・東側は土坑SK-39・81に掘り込まれる。土坑から遺物は出土していない。住居の平面形は東西方向に長い長方形、主軸は東から10度程度振れる。南北3.6m、東西5.1m。中央付近で南北方向のサブトレンチを掘削し、この部分の深さは0.2m。南壁付近でやや深くなる。

全体で若干の土器が出土したが、やや浮いた位置のものもある。甕・鉢などがある。

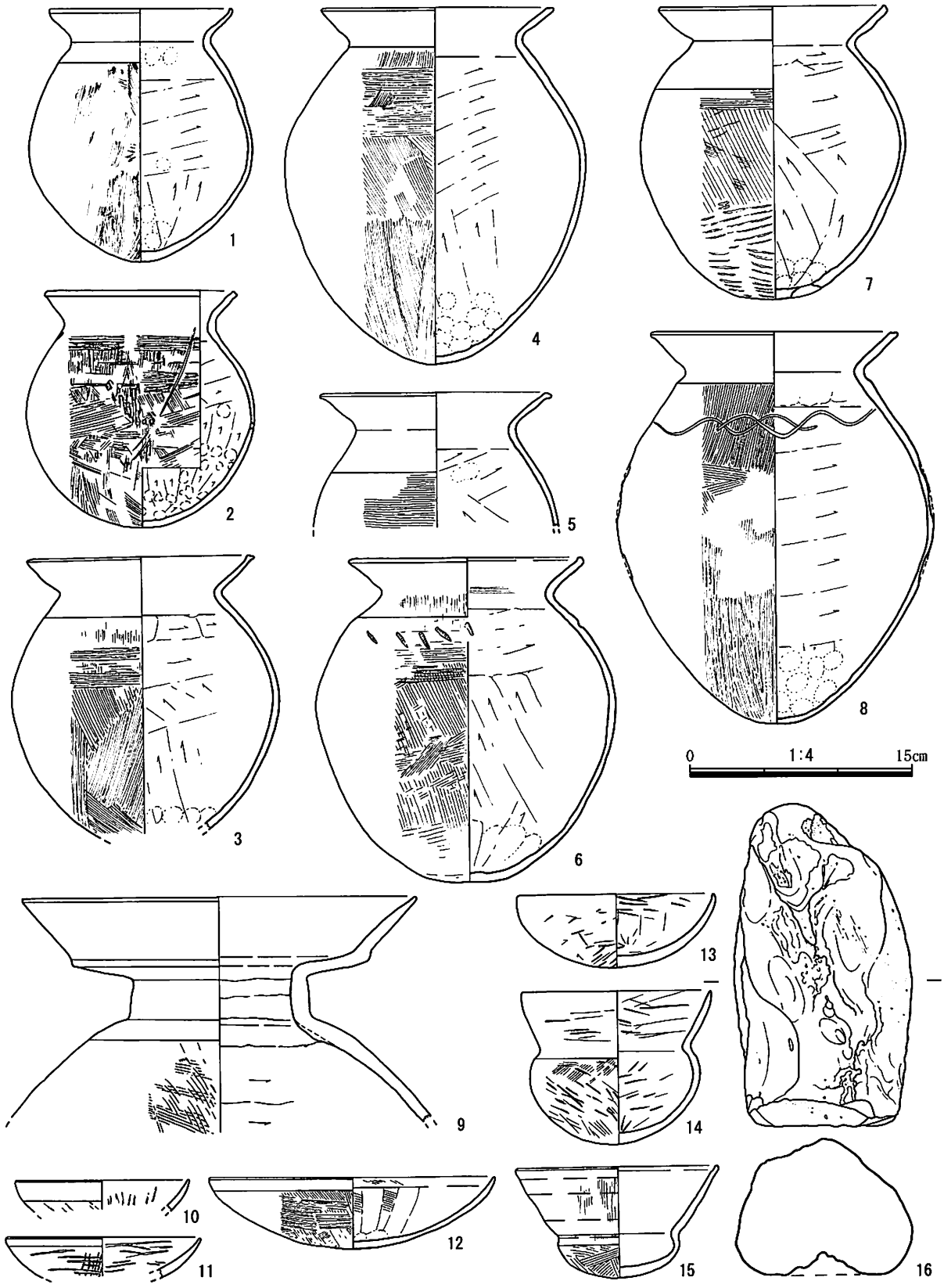
⑩10号住居（第13図）

調査区西側（A-３区）で一部を検出した。時期不明の柱穴25・27、土坑SK-68、現代の貯蔵穴に掘り込まれる。北側のA-２区中央に設定した南北方向のサブトレンチで北辺を検出しておらず、ベルト下に位置するのであろう。南北は4m程度、東西2.5m程

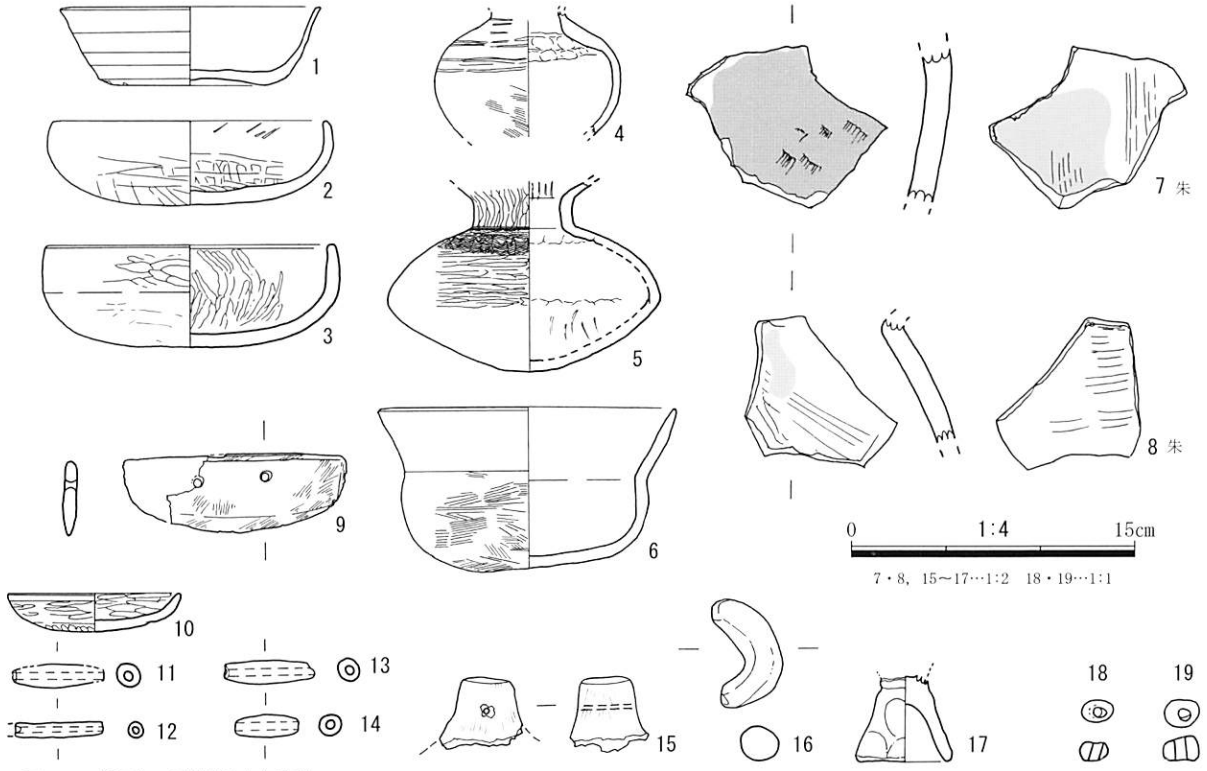




第13図　53次調査　10号住居・土坑SK-69と出土遺物



第14図　53次調査　落ち込みSX-77出土遺物



第15図　53次調査　遺構外出土遺物

度か。平面は南北に長い長方形、主軸は東辺で北から20度程度振れている。深さは西壁サブトレンチの一部で確認し、0.1m程度。検出した硬化面は南側を現代の貯蔵穴に掘り込まれる。硬化面の平面は不整円形、南北1.3m以上、東西１m。住居から遺物は出土していない。

⑪土坑SK-69（第13図・図版４）

調査区南西（A-４区）で検出した。平面は隅丸長方形、中央付近に設定した南北方向のサブトレンチを掘削し、断面や深さなどを確認した。東西3.5m、南北2.4m、深さ0.7m。検出中とサブトレンチ掘削中に古代の土器が出土した。

遺物には土器（土師器・須恵器）と石器がある。土師器は甕・鉢・把手がある。把手**6**は16㎝あって、通有の牛角形把手よりかなり細長い。須恵器は高台のある杯身、高杯、甕があり、甕**7**の頸部外面にはタタキ調整の上部に「×」状のヘラ記号がある。砥石**11**は四面に研磨使用の平坦面が、一端に筋状の痕跡がある。

⑫落ち込みSX-77（第14図・図版８）

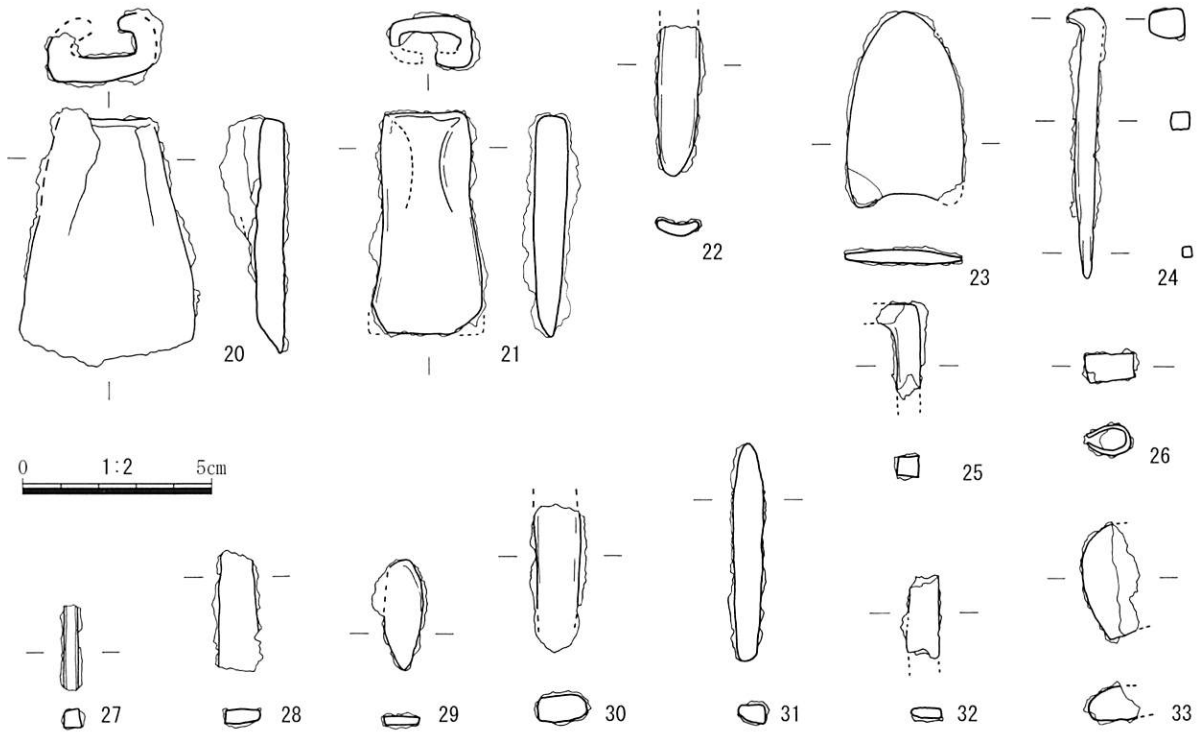
調査区北側（B-１～C-１区）で検出した。黒褐色粘質土の埋土で古代の遺物を含んでいたため、下層遺構を確認するために掘削した。８号住居（C-２区）などを掘り込む。西から東方向に深くなり、調査区北西端では深さ0.3m。全体で弥生後期から古代にかけての遺物が出土した。主体となるのは古墳時代前期の土器である。

甕には頸部に刺突文を施すものと波状文を施すものがある。甕**6**の刺突文は施文具を斜めに傾けて横方向に五個並べている。甕**8**のヘラ状工具による波状文は始点と終点があり、右から左方向に回転させて施文していることがわかる。甕**2**の外面にもヘラ状工具による斜線があり、これは周囲を四等分した位置に四本施されている。

軽石製の支柱**16**は８号住居検出中に出土したもの（**第11図**）と同程度の大きさであるが、加工整形の痕跡は明瞭ではない。全体に焼けているためか赤く変色しており、白い粘土が付着する部分もある。

⑬溝SD-78（第６図）

調査区南半の３区と４区を分けるベルトの下にあり、調査区を横断する溝。埋土はやや明るい黒褐色土で、弥生～古墳時代および古代の遺構埋土と明確に判別できた。今年度の調査でこのような埋土はこの遺構のみであった。調査区東西端でベルト部を掘削し、断面形態などを確認した。長さ15mを検出し、幅0.95m、深さ0.3m。断面皿型で底部は平坦、幅0.45m。底部の標高は調査区西端で33.4m、東端で33.3mとわずかに西が高い。検出中に土錘（**第15図11**）が出土し



第16図　53次調査　鉄製品

たので、積極的な根拠ではないが遺構の時期は中世か。

⑭その他の遺物（第15・16図）

検出中に出土した遺構に伴わない遺物などである。土師器の杯身1と椀3は柱穴72（土坑SK-69の南）出土。鉢6は完形品。赤色顔料付着土器の体部破片7は内面に水銀朱があり、外面にもごく薄く残るように見えるが、判然としない。頸部付近の破片8は内面にベンガラが付着する。石包丁9は欠損する。

瓦器小皿10は完形で内外面にヘラミガキを施す。土錘は四点あり、いずれも同形同大。ミニチュア製品のうち、つまみ状製品15は穴が貫通する。土製勾玉とした16には穴がない。ミニチュア製品17は脚台部分と考えたが、上下の判断に確証はない。ガラス小玉はいずれも青色を呈する。

鉄製品は21点出土し、ごく小片を除く14点を図示した。すべて検出中などに出土し、遺構に伴うものはない。製品は鉄斧20・21、ヤリガンナ端部22、鉄鏃23がある。鉄斧20はやや大型、刃部が残存しているか錆によって明確ではない。釘状製品24・25と金具状製品26は後世の所産か。他にスラグなど加工・生産を伺わせる遺物は出土していない。

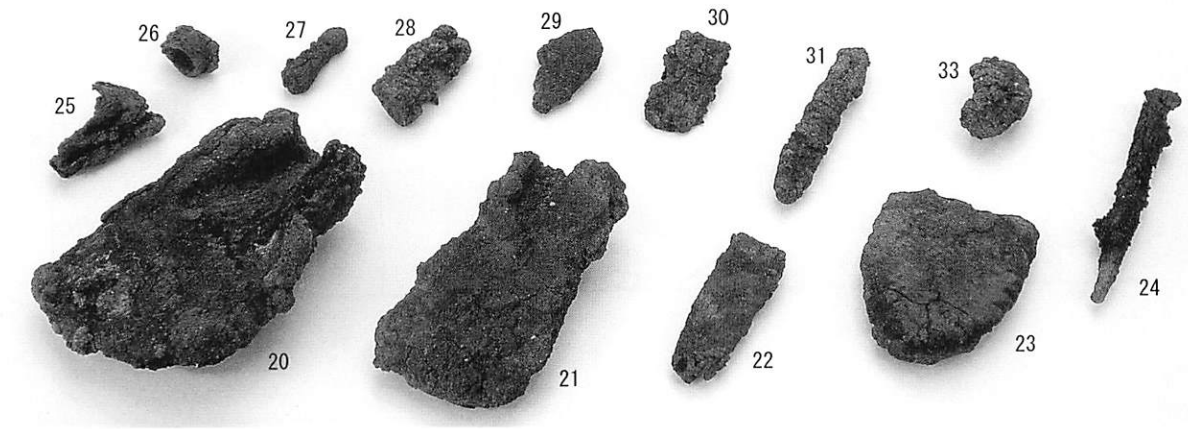


写真5　53次調査　鉄製品

第３章　54次調査の成果

第１節　グリッドの設定（第17図）

調査区は南北15.5m、東西7.7mの長方形で、調査区南部で住居と見られる直線的な遺構を検出したことから、確認のため西と南を拡張している。南北方向５mごとにグリッドを設けた。グリッドの境界部分は幅60㎝を通路として残し、断面確認にも利用した。グリッド名称は調査区の北からＡ・Ｂ・C区とした。調査面積は120㎡である。

第２節　層序（第18図）

調査地の標高は約33.9～34.0m、畑として利用されていたためほぼ平坦。地表面から0. 5mの掘削で遺構検出面に達し、その標高は約33.4～33.5mであった。基本的な堆積は以下のとおり。

Ⅰ層（耕作土）厚さ20～30㎝　黒褐色砂質土

Ⅱ層（包含層）厚さ20～30㎝　黒褐色粘質土、土器を含み、しまらない

Ⅲ層（遺構埋土）暗褐～黒褐色粘質土、地山起源のブロックを含み、しまらない

Ⅳ層（地山）黒褐色土・灰～黄褐色土、ややしまる

第３節　遺構と遺物

全体で竪穴住居４、土坑６、柱穴などを検出した。

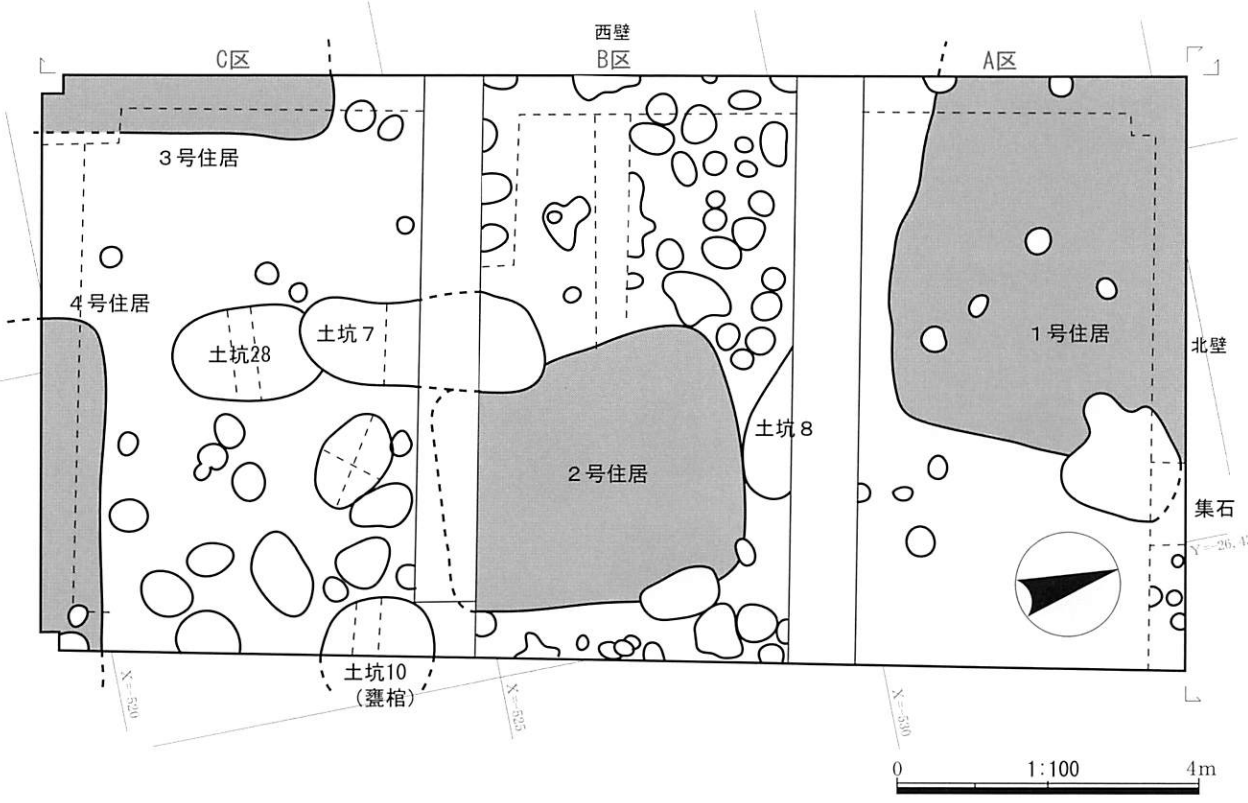
①１号住居（第19図、図版６・８）

調査区北端（Ａ区）で一部を検出した。北と西側は調査区外へ続く。北側を時期不明の遺構（土坑SK-32と集石遺構）に掘り込まれる。南北４m以上、東西4.7m以上。主軸は不明、方位は北から20度東に振れる。深さは西壁のサブトレンチで0.25m。一部が深くなるが、完掘していないためこの部分が貯蔵穴などの施設か不明である。検出中に若干の土器と石器（砥石）が出土した。なお、南側に硬化面と焼土が集中する範囲を検出したが、住居として捉えることができなかった。

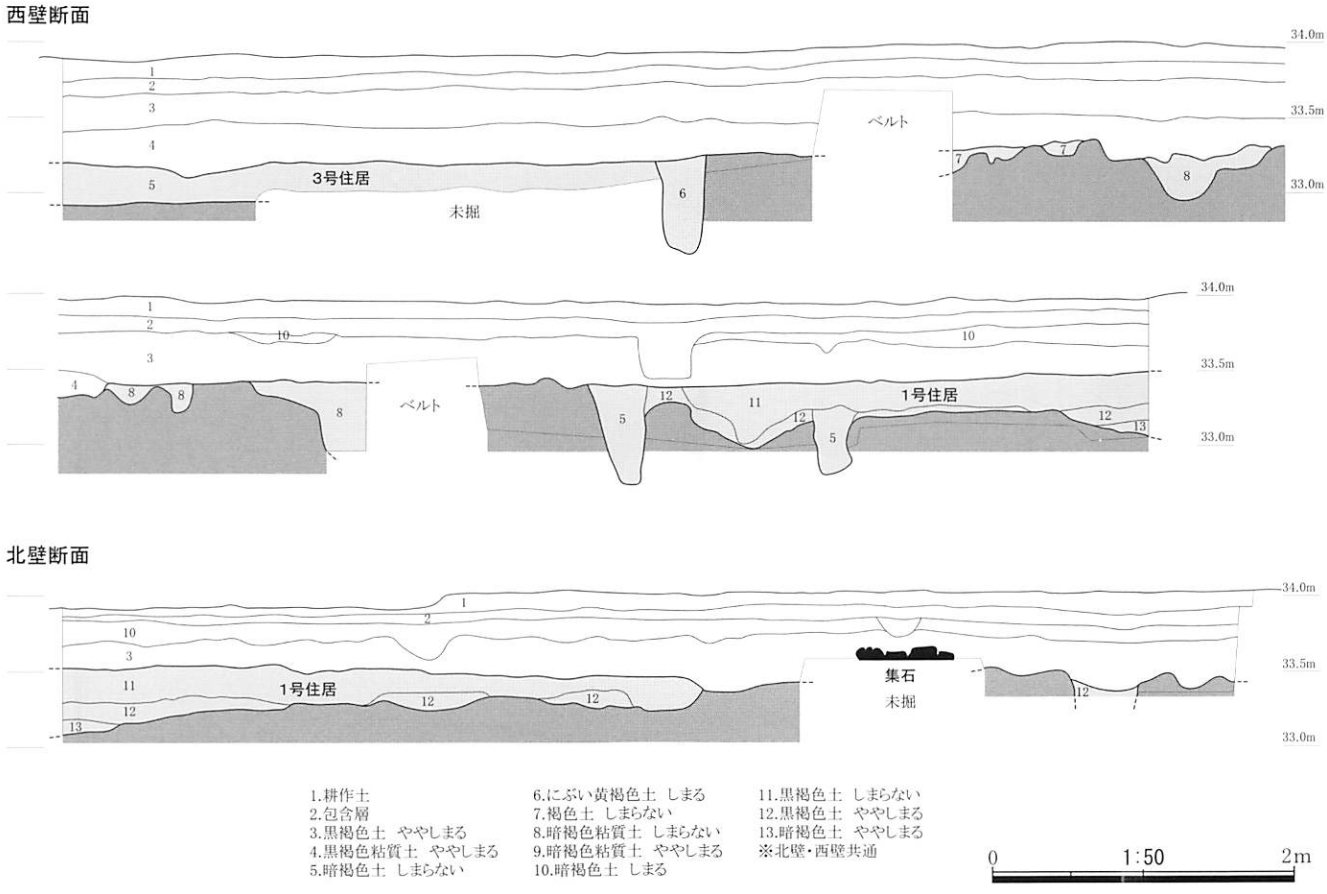
遺物にはジョッキ形土器がある。これと接合する小破片が調査区全体で出土している。古代の遺物2～4はやや浮いた位置にあり、埋没中に混入したもの。

②２号住居（第20図・図版５）

調査区中央（Ｂ区）で一部を検出した。南はＢ区とＣ区を分けるベルト下に位置するため検出していない。南を土坑SK-７に掘り込まれる。平面は長方形で南北４m、東西3.8m。南ベルトのサブトレンチを掘削し、深さは0.02m程度とごくごく浅い。主軸はほぼ方位



第17図　54次調査　遺構配置



第18図　54次調査　土層断面

に沿う。検出中に壺口縁1が出土したが、埋土の残存が非常に悪いため、この遺物が住居の時期を示すものか明らかではない。

③３号住居（第21図・図版６）

調査区南西（Ｃ区）でごく一部を検出した。住居以外の遺構の可能性もあるが、直線的なラインから住居とした。西と南側が調査区外へ続く。検出規模は南北４ｍ、東西1.6ｍ。深さは西壁サブトレンチで0.25ｍ。方位は北から10度西に振れる。土師器杯蓋と杯身が出土した。このうち杯身3は内面に「×」状のヘラ記号がある。

④４号住居（第21図・図版６）

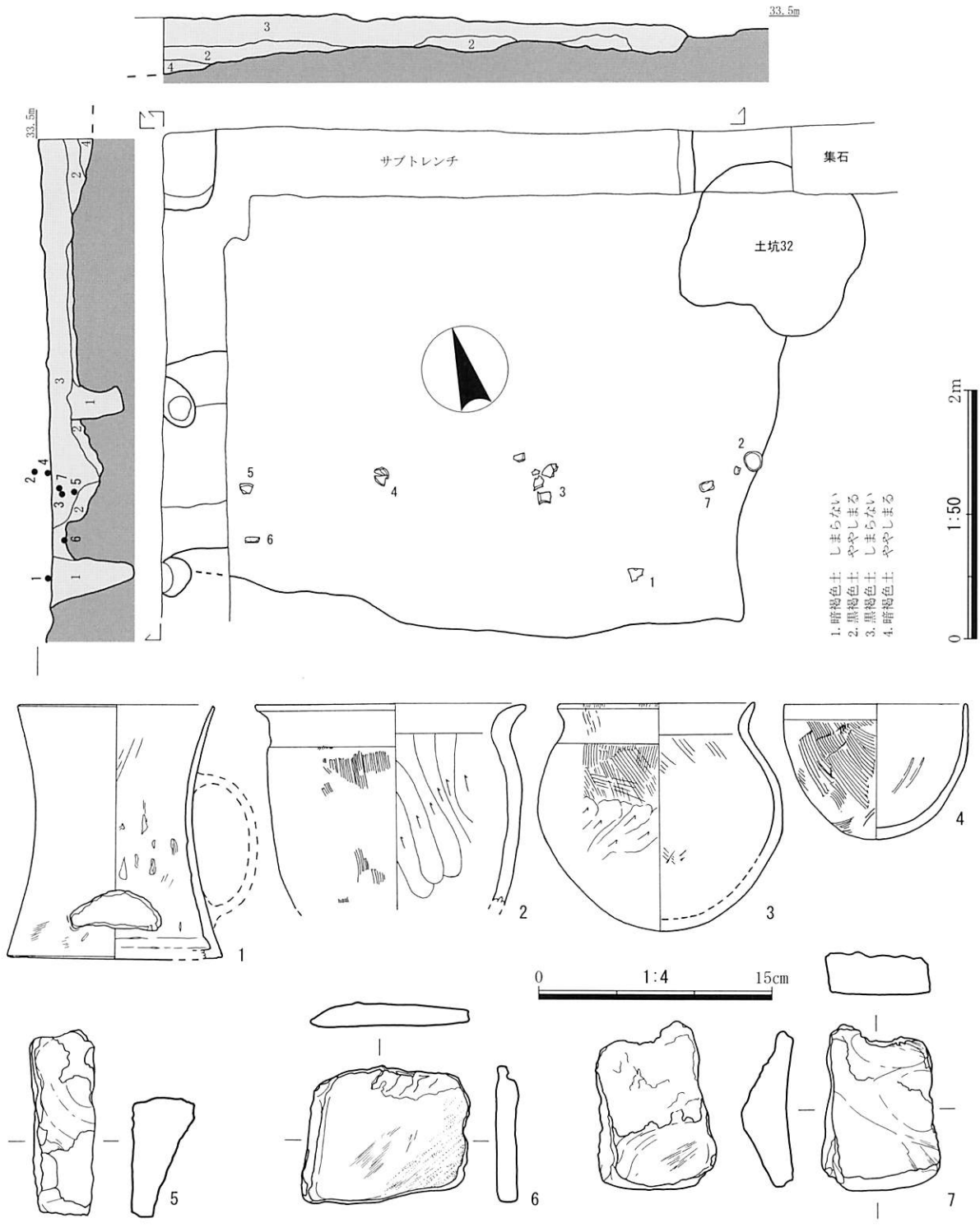
調査区南西（Ｃ区）でごく一部を検出した。３号住居と同様、直線的なラインから住居と判断した。南と東側が調査区外へ続く。検出規模は東西3.9ｍ、南北１ｍ、深さ不明。方位は北から10度西に振れ、３号住居と類似する。図示できる遺物は出土しなかった。

⑤土坑SK-10（甕棺　第22図・図版６）

調査区中央付近（Ｃ区北東）に位置する小児用甕棺。遺跡では三地点目（注１）となる甕棺である。土坑東側のごく一部が調査区外へ続く。南北3.75ｍ、東西1.75ｍ以上（おそらく２ｍ程度）、深さ0.4ｍの長楕円形土坑を二段に分けて垂直に掘り込み、甕を斜め（水平から43度立ち上がる）に差し入れて設置している。上下甕の合わせ目には白色粘土を貼り付けている。

下甕は完形だが上甕の上面が土圧のためか破損しており、そこから土が内部に流入し堆積していた。骨など脆弱な遺物が残存していないか確認するため取り上げ、堆積土を洗浄したが、遺物は出土しなかった。

上甕1は下甕よりやや小さい。上半部を製作時の粘土紐接合部分で割り、蓋としている。下甕と同じ位置に突帯を巡らせて刻み目をつける。底部は平底で体部からわずかに突出する。底部近くの外面に竹管による刺突（径6㎜）が一点あり、この部分が設置時の上面となっていた。下甕2は外湾する短い口縁をもち、体部最大径は上半にある。体部から頸部にかけて丸みを帯び、強く頸部がくびれる壺状の形態である。中位に突帯を巡らせ、刻み目をつける。底部は平底である。



第19図　54次調査　1号住居と出土遺物

なお、調査区で検出した他の土坑についても甕棺の可能性が生じたため、サブトレンチを掘削したが、甕棺はこの一基のみであった。東側の53次調査でも検出していないので、墓地として他に甕棺が存在するなら、この地点以東で53次調査地点までの40m程度の範囲に限定される。

⑥土坑SK-7（第23図）

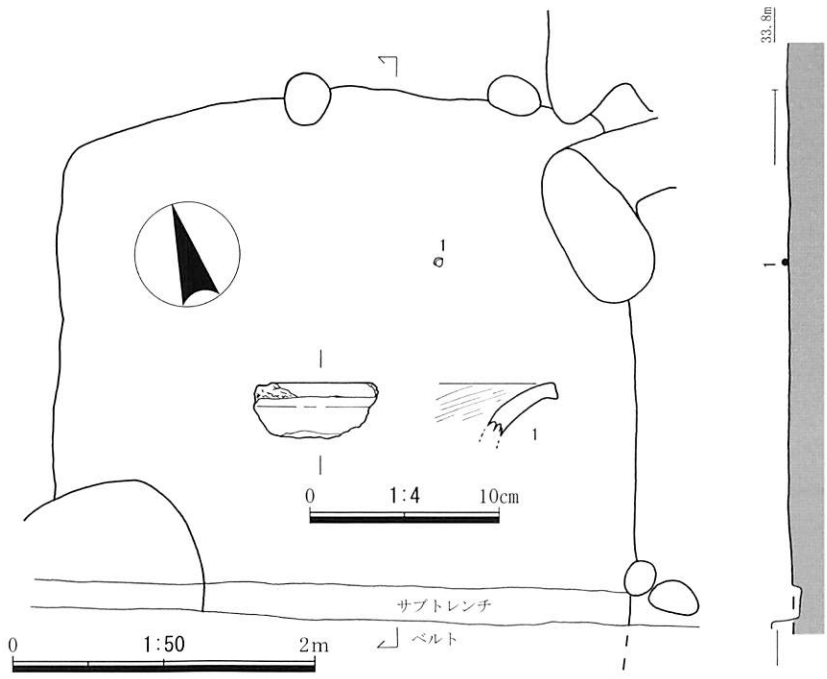
調査区中央付近のB・C区で検出し、一部を掘削した。長さ3.3m、幅1.15m、深さ0.45m。滑石製石鍋が出土し、底部近くの破片内面（**第24図24**）には炭化物が付着している。調理ミスによるものか。

⑦集石遺構（第22図・図版6）

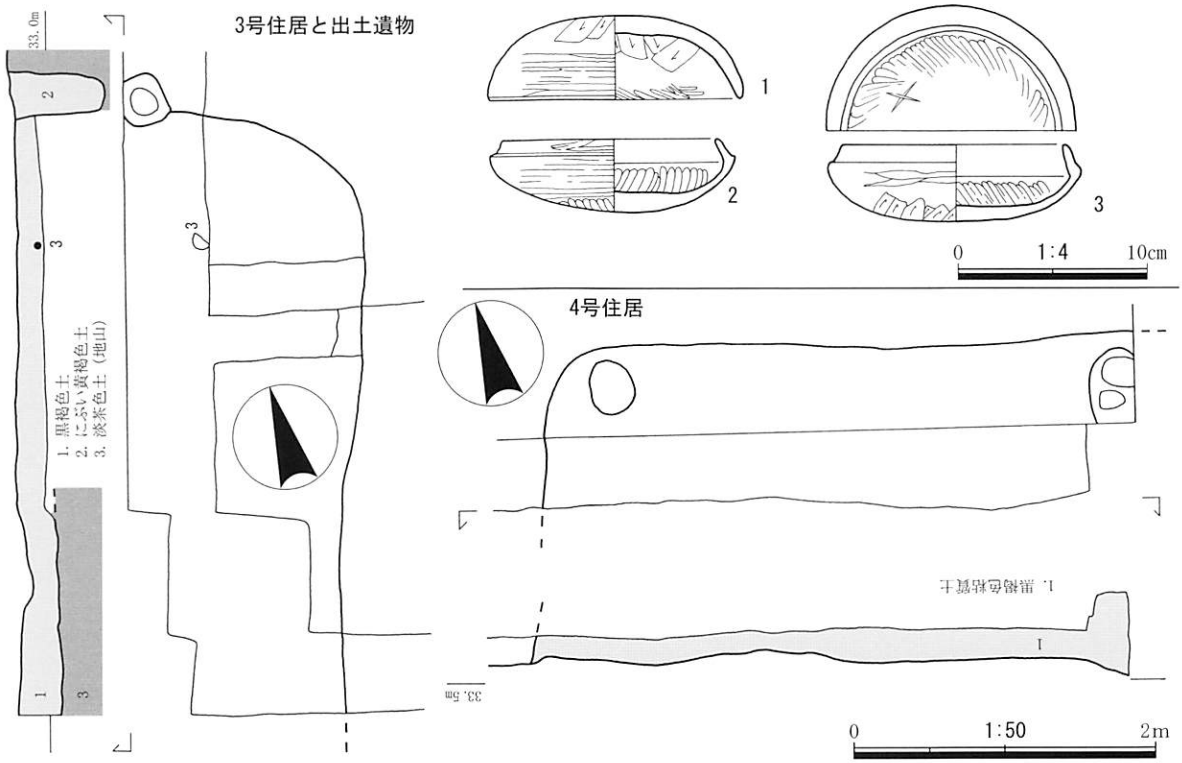
調査区北端（A区）で検出した。重機掘削中に礫が集中する範囲があったため、この箇所を残して人力で掘削・検出した。北側は調査区外へ続く。

東西1.4m、南北0.8m以上の範囲に円礫と凝灰岩の

角礫が集まり、上下に１～２石が重なっている。土が見える部分もあり、それほど集中していない。石材は表面を洗浄したが被熱の痕跡はなく、周囲に炭化物や焼土もなかった。検出中に土器が数点出土しているが、いずれも小片で、遺構に伴わない。検出範囲が限定的であること、出土遺物がないことから性格や時期を判断できなかった。当初は検出面が古墳時代の遺構面より0.2m程度高く、包含層中であったため中世など後代の遺構と考えていた。しかし、検討委員から縄文時代遺構の可能性も指摘されている。



第20図　54次調査　2号住居と出土遺物



第21図　54次調査　3・4号住居と出土遺物

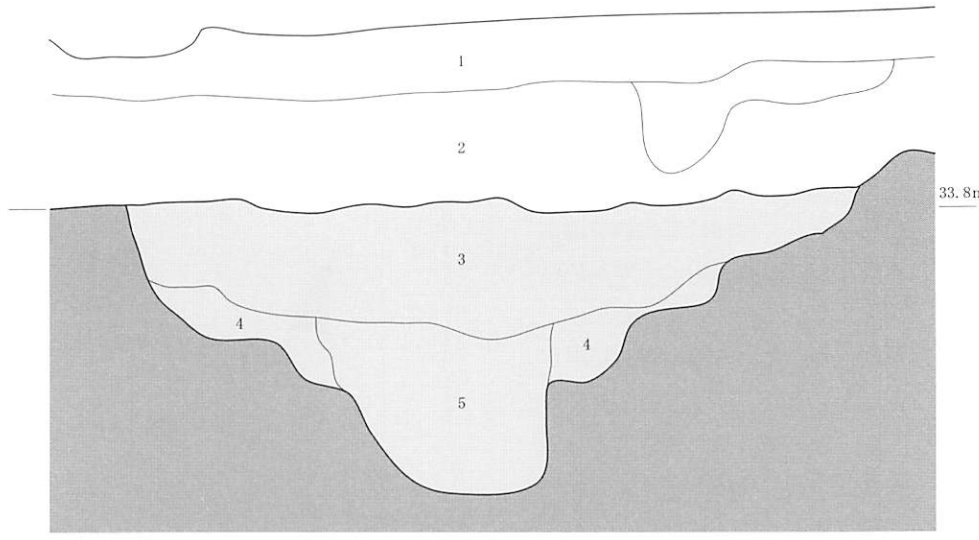
⑧その他の遺物（第24図）

壺1はＣ区で一括して出土した。ほぼ完形に復元できた。周囲を精査したが掘り込みなどは検出できず、遺構として捉えられていない。肩部に同じ施文具で直線文と波状文を施す。ジョッキ形土器4・5は口縁と底部の破片で、胎土が異なる別個体。１号住居出土とあわせ、今回の調査で三個体のジョッキ形土器が出土している。器台6は小破片だが櫛書文・円形スカシなどを施す搬入品。スカシは三箇所確認できる。

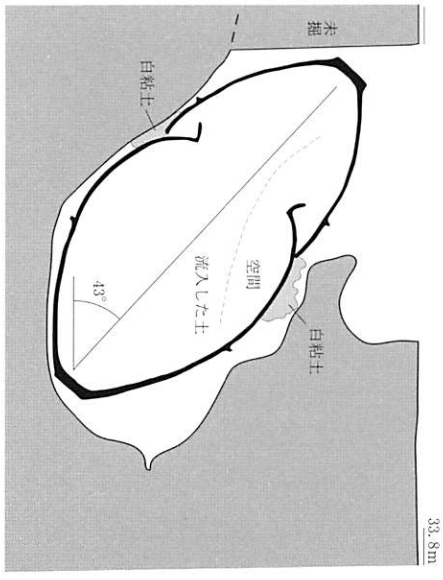
赤色顔料が付着した遺物には石材7・8と土器9～16がある。石材7はごくわずかに赤色顔料（ベンガラ）が残る。石棺の破片であろう。磨石（石杵）8は一面に赤色顔料（ベンガラ）が多く付着する。直径9.5×7.2㎝、厚さ6㎝。片手で握るとほどよい大きさの自然石で、加工していない。石材表面に摩擦痕跡はなく、押しつぶすような上下の動きのためにベンガラが付着

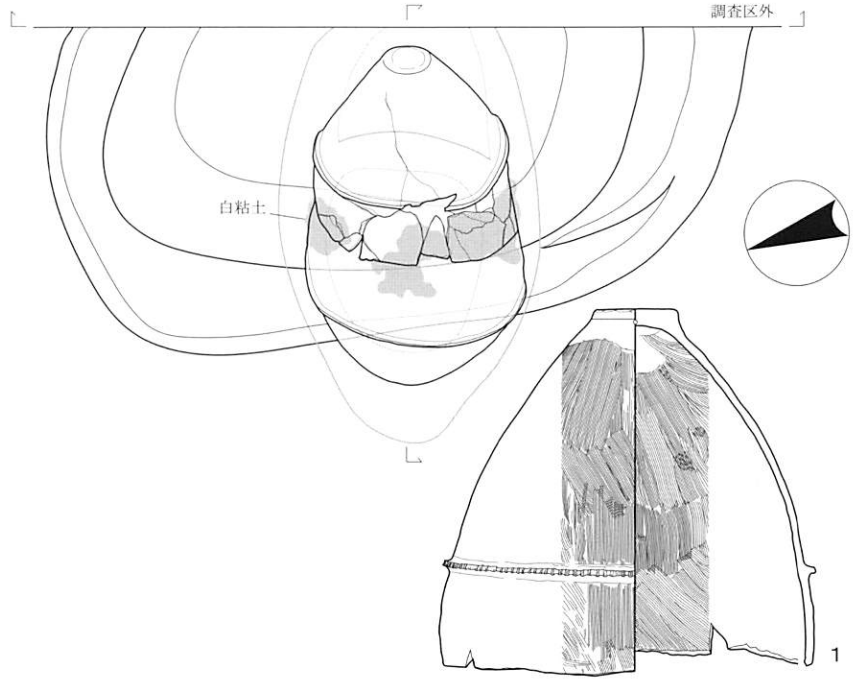
土坑10（甕棺）

1. 耕作土
2. 暗褐色土
3. 黒褐色土　ややしまる（甕埋め戻し土）
4. 褐色土　しまらない、地山ブロック多く含む（甕固定土）
5. 3層と4層がブロックで混合（甕設置土）

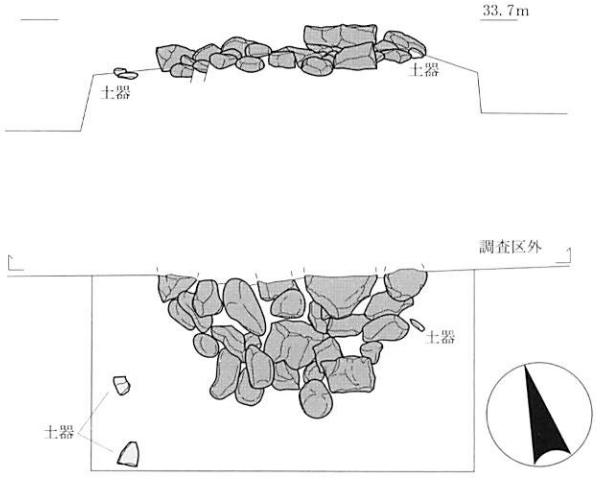


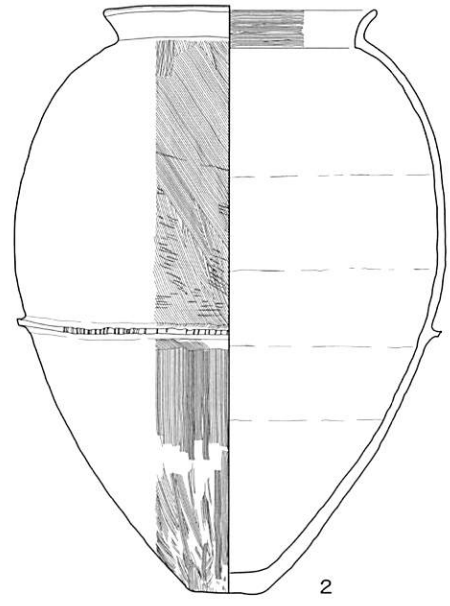
0　1:20　1m





集石

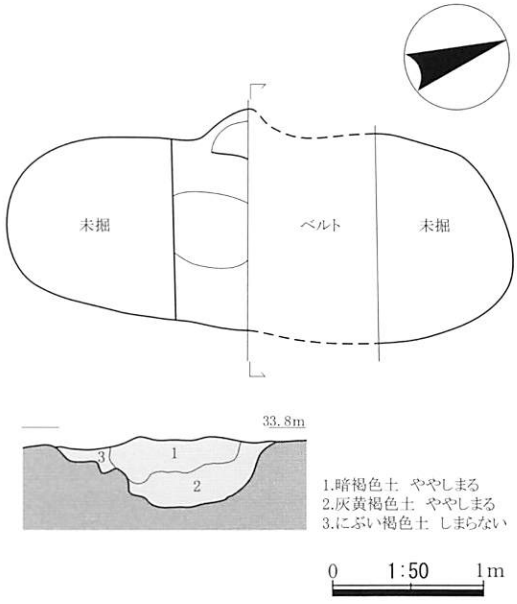




0　1:20　1m

0　1:10　50cm

第22図　54次調査　土坑SK-10（甕棺）・集石遺構



第23図　54次調査　土坑SK-7

したものである。方保田東原遺跡でこれまでに７点の石杵が報告されているが、いずれも摩擦による平坦面をもつ（注２）。加工痕跡に乏しい円礫に赤色顔料が付着する資料としては初例である。

広口壺**9**は口縁内面にわずかに赤色顔料（ベンガラ）が残る。水銀の朱付着した破片のうち**10・11**および**14・16**は接合しないが胎土や焼成・調整が類似しているので、同一個体の別の部分か。

鉄製品**17**は板状で両端が破損している。

縄文土器**18～20**は検出中に出土した（注３）。他にこの時期の遺物は見られない。縄文時代早期の押型文土器**18**は楕円形の施文具。外面に突帯状貼付を施す**19**は時期不明。外面全体に縄文を施す**20**は中期の船元系である。

中世の遺物も少量ではあるが出土している。滑石製石鍋**23**は口縁近くの破片、縦方向の把手を削りだす。焦げ付きが付着した底部付近**24**は土坑SK-7出土。どちらもやや大きな個体だが、温石などに再利用するための加工痕跡は見られない。

注１　甕棺は「塚の本」および「大道小学校体育館」において報告例がある。

・1966年…塚の本：甕棺２、箱式石棺１。立山広吉「塚の本遺跡調査報告」『石人』第８巻２月号、城北史談会、1967

・1969年…大道小体育館：甕棺３。隈昭志「熊本県山鹿市大道小学校出土の弥生土器」『考古学雑誌』第69巻第１号、日本考古学会、1983

・1992年…大道小体育館：甕棺13、木棺墓１。中村幸史郎『方保田東原遺跡（７）』山鹿市文化財調査報告書第２集、山鹿市教育委員会、2006

・2003年…50次調査（137-1番地…1966年「塚の本」とほぼ同一地点）：甕棺らしき土坑を確認。山口健剛『方保田東原遺跡（８）』山鹿市文化財調査報告書第４集、山鹿市教育委員会、2007

注２　①１次（1972年）②10次（1994年）③13次（1996年）④43次（2001年）⑤44次（2001年）⑥47次（2002年）⑦49次（2003年）

注３　縄文土器については熊本県立装飾古墳館池田朋生主任学芸員のご教示による。

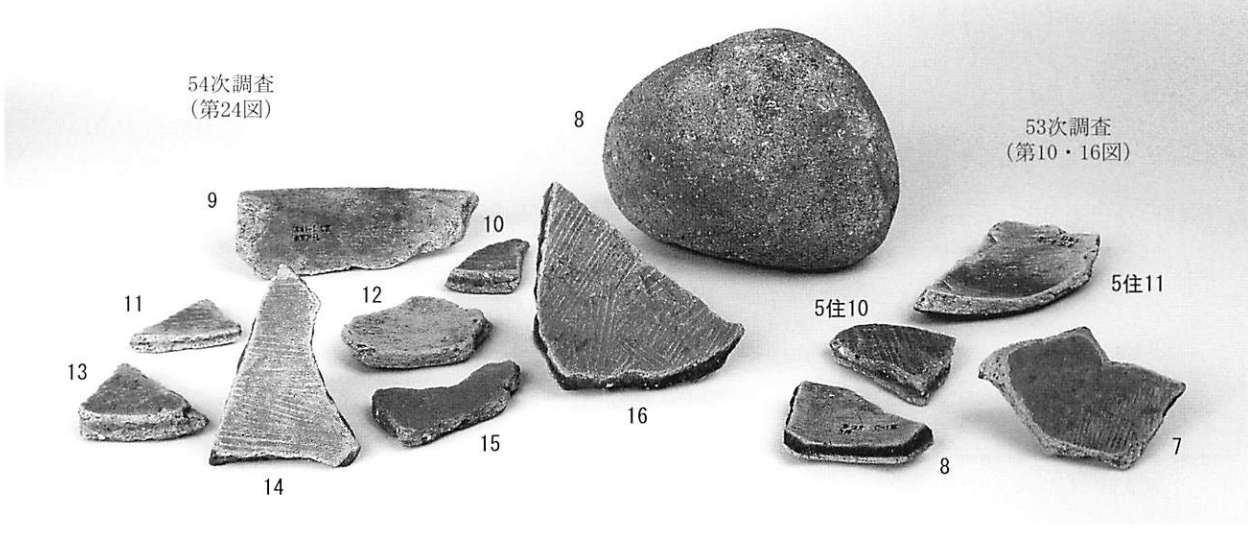
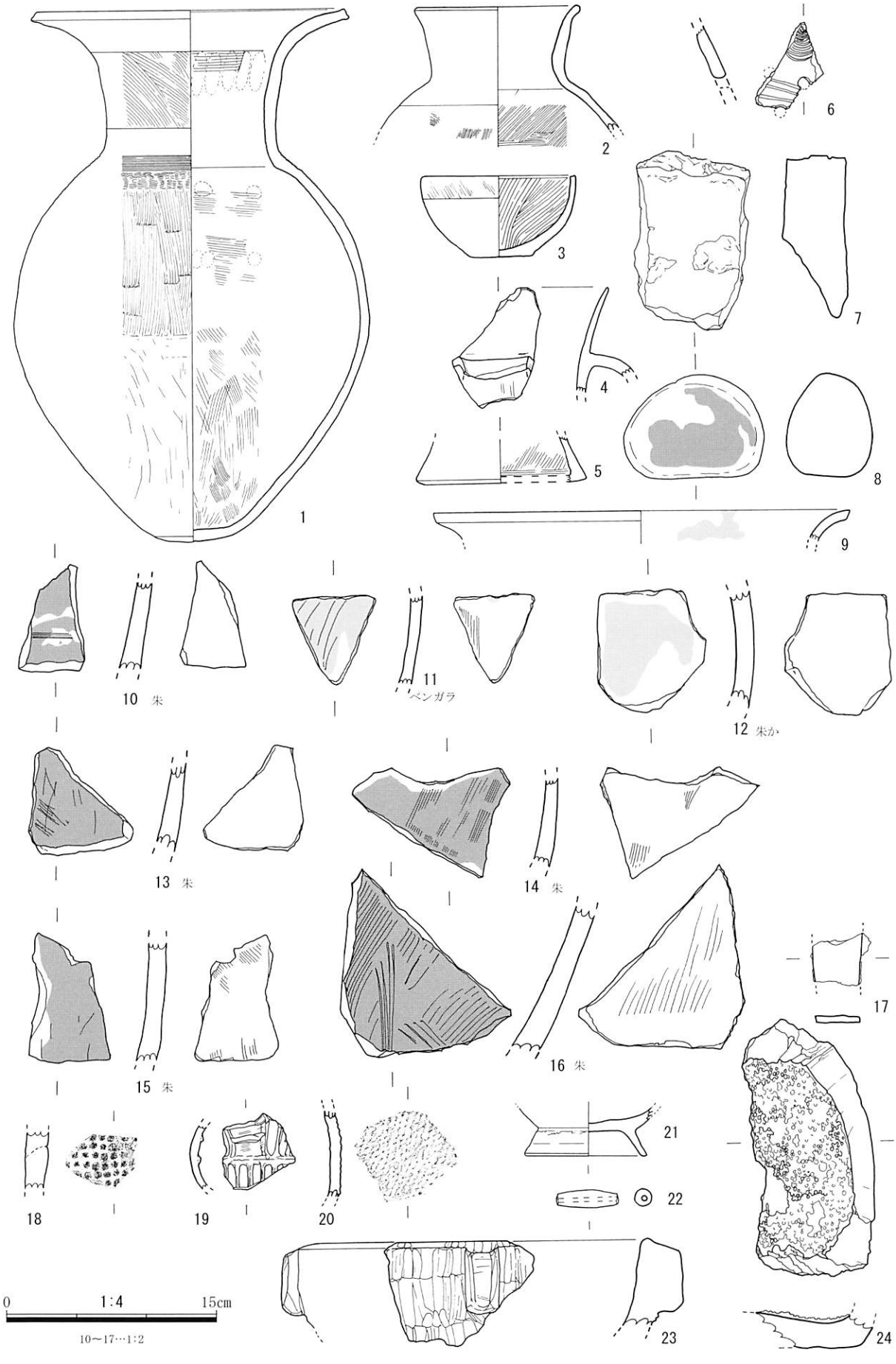


写真６　53・54次調査　赤色顔料付着遺物



第24図　54次調査　遺構外出土遺物

53次調査

図	番号	遺構名	P番号	器種	部　位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外　面	内　面	黒斑	煤	備　考	実測図	番号
7	1	1号住	P-5	甕	口縁-胴部 口縁1/2残	(19.5)	不明	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　雲母	良好	ヨコナデ- タタキハケ	ヘラケズリ	有	有		1	
7	2	1号住	P-4	高坏	坏-底部	不明	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ハケ-ナデ	ハケ-ナデ	無	無	脚部完形	2	2
7	3	1号住	P-2	甕	底-脚部	不明	不明	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　雲母	良好	ヨコナデ	ハケ-ヨコナデ	有	無		2	1
7	1	2号住	P-16	甕	口縁-胴部	(11.8)	不明	10YR7/6 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有		9	3
7	2	2号住	P-51	甕	ほぼ完形	12.5	12.2	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ-ナ ナメハケナデ	ヨコナデ- ナナメハケ	無	有	外面特に摩滅	7	2
7	3	2号住	P-54	甕	口縁-胴部	(14.0)	不明	10YR8/1 灰白色	良好・角閃石　長石	良	ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	有		14	2
7	4	2号住	P-7	甕	口縁-胴部	(13.4)	不明	5YR6/6 橙色	良好・角閃石　長石　石英 雲母	良好	ヨコナデ-ヨコハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有		9	2
7	5	2号住	P-46	甕	口縁-胴部	(13.7)	不明	10YR8/4 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ－ヨ コ・ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	無		10	2
7	6	2号住	P-76	甕	破片	(13.6)	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	肩部にハケ工具による 刺突4	6	1
7	7	2号住	P-49	甕	口縁-底部	(13.7)	20.6	10YR8/4 浅黄橙色	やや良好・赤褐色粒　長石 石英　雲母	良好	ヨコナデ-タ タキ-ハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	有	有		10	1
7	8	2号住	P-50	甕	口縁-胴部 口縁1/8・胴1/4強	(14.2)	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	肩部に波状文1	6	2
7	9	2号住	P-4	甕	ほぼ完形	14.1	18.2	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	底部内面に指頭圧痕	7	1
7	10	2号住	P-36	甕	口縁-胴部	15.4	不明	5YR7/6 橙色	やや精良・角閃石　長石	良	ナデ-ヨコハケ・ ナナメハケタタキ	ナデ-ヨコハケ・ ヘラケズリ	無	有		12	1
7	11	2号住	P-10	甕	口縁-肩部	(14.7)	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテ・ ヨコハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	無	肩部に波状文1	9	1
7	12	2号住	P-34	甕	口縁-胴部	(15.0)	不明	7.5YR7/3 にぶい橙色	やや良好・赤褐色粒　長石 石英　雲母	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有		15	
7	13	2号住	P-72	甕	ほぼ完形	15.6	20.6	7.5YR7/2 明褐灰色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	有	有	吹きこぼれ痕	3	
8	14	2号住	P-18	甕	口縁-胴部	17.3	不明	2.5YR8/1 灰白色	良好・長石　雲母	良好	ナデ-タテハケ・ ヨコハケ	ナデ-ヘラケズリ	有	有		14	1
8	15	2号住 C-4区	P-7	甕	口縁-胴部	(17.6)	不明	7.5YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	有	内外面に煤	13	2
8	16	2号住	P-12	甕	口縁-底部 口縁5/8残・体3/8	(15.6)	26.65	10YR7/2 にぶい黄橙色	やや良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英		ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	有	有	胴部内面に煤	4	
8	17	2号住	P-52	甕	ほぼ完形 口縁完存	(15.6)	22.8	10YR8/3 浅黄橙色	やや良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ- ヘラケズリ	有	有		5	
8	18	2号住	P－64	甕	口縁-胴部	(18.3)	不明	2.5YR8/2 灰白色	良好・赤褐色粒　長石　石英 雲母	良	ナデ-ハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	無	外面に刺突文5	13	1
8	19	2号住	P-1	甕	口縁-底部	(26.8)	26.3	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英	良好	ヨコナデ-タテハケ	ナナメハケ-ナデ- ユビオサエ	無	有		8	2
8	20	2号住	P-13	甕	口縁-胴部 体部1/4残	(23.0)	不明	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	有	有	吹きこぼれ痕	16・17	
8	21	2号住	P-54	壺	口縁1/8残	(18.2)	不明	2.5YR6/8 橙色	精良・赤褐色粒　角閃石 長石	良好	ヨコハケ・ ナナメハケ-ミガキ	タテハケ-ヨコナデ	無	有	二重口縁壺	8	1

表4　53次調査　遺物観察表

図	番号	遺構名	P番号	器種	部　位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外　面	内　面	黒斑	煤	備　考	実測図	番号
8	22	2号住	P-25	甕	頸部-胴部	不明	不明	10YR8/2 灰白色	良好・角閃石　長石　石英 雲母	良	ナデ-波状文 ヨコ・タテハケ	ナデ-ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	波状文 内面に煤	11	
8	23	2号住	P-58	台付鉢	完形	(16.4)	9.0	5YR7/8 橙色	精良・角閃石　石英	良	ヨコハケ	タテヘラケズリ- ハケ	無	無	透かし穴3	20	2
8	24	2号住	P-6	高坏	完形	17.9	11.1	5YR6/8 橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ-ナデ	無	無	透かし穴3	21	1
8	25	2号住	P-21	コシキ	ほぼ完形	16.0	8.8	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　長石	良好	ヨコナデ-ヨコハケ- ヘラケズリ	ナデ-ヘラケズリ	有	無	底部に穿孔1	23	1
8	26	2号住	P-5	鉢	口縁-胴部	20.1	不明	10YR8/4 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ナナメハケ- ヨコナデ	ナナメハケ	無	無		22	2
8	27	2号住	P-29	台付鉢	完形	10.8	5.0	7.5YR7/8 黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英	良	ヘラケズリ	ヘラケズリ-ハケメ	有	無		20	1
8	28	2号住	P-3	台付鉢	ほぼ完形	12.2	5.2	5YR6/8 橙色	精良・赤褐色粒　石英	良好	ヨコナデ- ユビオサエ	ヨコナデ	有	無	指の跡よく残る	23	2
8	29	2号住	P-74	鉢	ほぼ完形	11.0	7.3	2.5YR6/8 橙色	やや精良・赤褐色粒　石英	良好	ヨコナデ- タテハケ	ヨコナデ	無	無		19	2
8	30	2号住	P-48	鉢	口縁-底部	(10.0)	6.3	10YR7/4 黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英 雲母	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ-ハケ	無	無		19	3
8	31	2号住	P-27・29	壺	ほぼ完形	11.9	9.9	2.5YR6/8 橙色	やや精良・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ナナメハケ- ヘラミガキ	ナナメハケ-ナデ- ヘラミガキ	無	有	小型丸底壺	19	1
8	32	2号住	P-42	壺	口縁-底部	(11.8)	10.8	2.5YR6/8 橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石	良好	ヨコナデ- ヘラミガキ	ヨコナデ- ヘラミガキ	無	無		55	1
8	33	2号住	P-59	高坏	口縁-頸部	(25.9)	不明	10YR6/4 にぶい赤褐色	やや良好・赤褐色粒　角閃石 長石　雲母	良好	ナナメナデ	ヨコナデ	無	無		22	1
10	1	5号住	P-14	甕	口縁-胴部 口縁1/16残	(16.4)	不明	10YR7/2 にぶい黄橙色	やや精良・角閃石　長石 石英	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ナナメハケ	有	有		27	2
10	2	5号住	P-3・4	甕	胴部-脚部	不明	不明	5YR6/6 橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	タテハケ- ヨコナデ	ナナメハケ -ヨコハケ	無	有	全体に赤い	27	1
10	3	5号住	P-2	甕	底部-脚部	不明	不明	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	有	砂型	28	2
10	4	5号住	P-11	甕	胴部-脚部	不明	不明	2.5YR6/6 橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　雲母	良好	タテハケ- ヨコナデ	ヨコハケ- ヨコナデ	無	有		28	3
10	5	5号住	P-1	甕	脚部1/3残	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英 黒曜石	良好	ヨコハケ-ナデ	ヘラ-ヨコナデ	無	無	砂型	28	1
10	6	5号住	P-8	壺	口縁-胴部	(15.6)	不明	10YR6/2 灰黄褐色	良好・角閃石　長石　石英 雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ-ナデ	ヨコナデ- ナナメハケ	有	有	胴部最大径に突帯、 雑な刻目	25	1
10	7	5号住	P-9・10	壺	口縁-胴部	(17.4)	不明	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好・角閃石　長石	良好	ヨコナデ- ナナメハケ-ナデ	ヨコハケ-ナデ- ナナメハケ	無	有		26	1
10	8	5号住	P-5	無頸壺	口縁-底部 体部1/4残	(9.0)	16.95	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ- タテハケ	ヨコナデ-ハケ	有	無	焼成前穿孔2、 高三潴式か	25	2
10	9	5号住	P-6	甕	口縁-頸部	(32.6)	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・角閃石　長石　石英 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無		28	4
10	10	5号住	P-10	不明	胴部	不明	不明	10YR4/6 赤色	良好・角閃石　長石　石英 雲母　黒曜石	良好	タテハケ	ナデ	無	無	赤色顔料付着 ベンガラ	26	2
10	11	5号住		甕	胴部	不明	不明	—	良好・長石　石英	良好	タテハケ	ヨコハケ	有	無	赤色顔料付着 ベンガラ	58	1
11	1	6号住	P-7	甕	口縁1/8残	(17.0)	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・角閃石　長石　雲母	良好	ヨコナデ-タタキ- ハケ	ナナメハケ- ヨコナデ	有	有		29	1
11	2	6号住	P-6	鉢	口縁-胴部	(15.8)	不明	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好・角閃石　長石　雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ナデ	有	無		29	3

表5　53次調査　遺物観察表

図	番号	遺構名	P番号	器種	部　位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外　面	内　面	黒斑	煤	備　考	実測図	番号
11	3	6号住	P-5	鉢	口縁-胴部	(24.8)	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや精良・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヘラケズリ-ナデ	ヨコナデ	有	無	内面橙色	29	2
11	1	7号住	P-8	台付鉢	胴部-脚部	不明	不明	5YR6/6 橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良	ハケ-ヨコナデ	ナデ-ヘラケズリ	無	無		30	
11	1	8号住	P-12	鉢	口縁-胴部 口縁3/8残	(10.6)	不明	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ- ヘラケズリ	ヨコナデ- ヘラミガキ	無	無		33	
11	2	8号住	P-11	甕	口縁-底部	(18.4)	28.8	5YR6/6 赤褐色	精良・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ-ナデ	有	有		31	
11	3	8号住	P-10・11	甕	ほぼ完形 口縁3/8残	18.9	34.2	5YR6/6 橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ナナメハケ	有	有	二次的な焦げ跡	32	
12	1	9号住	P-2	壺	口縁-胴部	14.2	不明	7.5YR7/6 橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石	良好	ヨコナデ-ハケ- ヘラケズリ	ヨコナデ	有	無	小型丸底壺	34	1
12	3	9号住	P-6	鉢	口縁-胴部	(14.8)	不明	5YR6/6 橙色	精良・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヨコハケ- ヘラケズリ-ミガキ	ヨコナデ-ハケ- ヨコナデ	無	無		34	2
12	2	9号住	P-10	坏	口縁-底部	(10.6)	3.15	10YR7/2 にぶい黄橙色	やや良好・角閃石　長石 石英　雲母	良好	ヨコナデ- ヘラケズリ	ヨコハケ- ヨコナデ	有	無		35	
12	4	9号住	P-4	甕	完形	(16.8)	23.5	10YR8/3 浅黄橙色	やや良好・長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	図上復元、 煤は体部上半のみ	36	
14	1	土坑69	P-5	甕	口縁-肩部 口縁3/8残	(15.6)	不明	5YR7/6 橙色	良好・長石　石英	良・ 良好	ナデ・タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	無		40	2
14	2	土坑69	P-2	甕	口縁-肩部	(21.6)	不明	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好・長石　石英	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ヘラケズリ	無	無		40	1
14	3	土坑69	P-23	甕	口縁-肩部 口縁1/8残	(22.0)	不明	7.5YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	無		41	2
14	4	土坑69	P-4	甕	口縁-肩部 口縁1/8残	(36.8)	不明	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	無		41	1
14	5	土坑69	P-10	鉢	口縁1/4残	(14.8)	不明	7.5YR8/6 浅黄橙色	精良・赤褐色粒　長石	良好	ナデ-ミガキ- ヘラケズリ	ナデ-ミガキ- ヘラケズリ	無	有		38	2
14	6	土坑69	P-30	取手	破片	長さ 16.0	直径4.0	10YR8/2 灰白色	良好・長石　石英	良好	ユビオサエ	—	無	有	長い	43	
14	7	土坑69	P-24	壺	口縁-肩部	(22.0)	不明	2.5YR3/4 明赤褐色	精良・長石　石英	良好	ナデ-ナデ・タタキ	ナデ-タタキ	無	無	須恵器。ヘラ記号「×」、 肩部に自然釉	39	
14	8	土坑69	P-7	坏B	口縁1/4残	(13.6)	5.6	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好・長石	良好	ナデ	ナデ	無	無	須恵器	42	2
14	9	土坑69	P-29	坏B	口縁3/8残	(13.4)	6.0	2.5YR5/2 暗灰黄色	良好・長石	良好	ナデ	ナデ	無	無	須恵器、 内外面で色調差	42	1
14	10	土坑69	P-6	高坏	脚部1/8残	不明	不明	7.5YR7/1 灰白色	やや精良・長石　石英	良好	ナデ	ナデ・指ナデ	無	無	須恵器	38	1
15	1	落ち込み 77	P-35	甕	完形	(12.6)	17.1	10YR7/2 にぶい黄橙色	やや良好・赤褐色粒　長石 雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	図上復元	46	1
15	2	落ち込み 77	P-11	甕	ほぼ完形	12.6	16.1	10YR8/3 浅黄橙色	良好・角閃石　長石　雲母	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	焼成穿孔2	50	1
15	3	落ち込み 77	P-36・37	甕	口縁-胴部	14.5	不明	7.5YR7/2 にぶい橙色	良好・赤褐色粒　長石　石英 雲母	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	底部に煤多い	48	2
15	4	落ち込み 77	P-34	甕	ほぼ完形	14.8	15.8	10YR8/1 灰白色	やや良好・赤褐色粒　長石 雲母	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	有	有		47	1
15	5	落ち込み 77	P-5・8	甕	口縁-胴部 口縁1/8残	(15.0)	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石	良好	ヨコナデ-ヨコハケ	ヨコナデ- ヘラケズリ	無	有	外面に指紋	47	2
15	6	落ち込み 77	P-36	甕	完形　口縁3/4弱 頸部3/4残	15.4	22.1	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石　雲母	良好	ナナメハケ	ヘラケズリ	有	無	肩部に刺突文5	49	

図	番号	遺構名	P番号	器種	部　位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外　面	内　面	黒斑	煤	備　考	実測図	番号
15	7	落ち込み77	P-32	甕	ほぼ完形	15.4	20.0	10YR8/2 灰白色	良好・赤褐色粒　長石　雲母	良好	ヨコナデ-ハケ-タタキ-ナデ消し	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	有	底部に焼成穿孔か	48	1
15	8	落ち込み77	P-28	甕	完形	(16.0)	26.5	10YR8/3 浅黄橙色	やや良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	有	波状文1、右→左	46	2
15	9	落ち込み77	P-22	壺	口縁-肩部 口縁1/2残	27.0	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良	ハケ-ヘラケズリ	ハケ-ヘラケズリ	無	無	複合口縁壺、粘土継ぎ目明確	51	
15	10	落ち込み77	P-27	坏	口縁1/4残	(13.2)	不明	5YR5/6 明赤褐色	精良・石英	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ	ヨコナデ-ヘラミガキ	無	無		53	2
15	11	落ち込み77	P-27	坏	口縁1/4残	(11.8)	不明	5YR6/6 橙色	精良・赤褐色粒　長石	良好	ヨコナデ-ヘラ	ヨコナデヘラミガキ	無	無		53	3
15	12	落ち込み77	P-29	坏	口縁-底部	(19.5)	4.9	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや良好・赤褐色粒　長石 石英　雲母	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ-ヘラミガキ	有	無		53	1
15	13	落ち込み77	P-25	鉢	完形	13.4	5.0	5YR6/8 橙色	精良・角閃石　長石　石英	良好	ケズリ-ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無		50	3
15	14	落ち込み77	P-6	壺	ほぼ完形 口縁5/8残	12.6	10.4	5YR6/4 にぶい橙色	やや精良・赤褐色粒　角閃石 長石	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ	ヨコナデ-ヘラミガキ	有	無	小型丸底壺	50	2
15	15	落ち込み77	P-4	壺	口縁-底部	(13.8)	7.5	2.5YR6/6 橙色	良好・長石　石英	良好	ヨコナデ-ハケ	ヨコナデ	有	無	小型丸底壺、やや粗製	52	
16	1	PIT-72	P-1	坏A	ほぼ完形	13.8	4.35～4.2	2.5YR5/2 灰黄色	精良・長石	良好	ヨコナデ-糸切り	ヨコナデ	有	無	口縁やや歪む、底部外面に火襷	37	1
16	2	包含層	P-15	杯	口縁-底部	(14.4)	4.5	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヘラケズリ-ヘラミガキ	ヨコナデ-ヘラミガキ	無	有	内面煤多い	37	2
16	3	PIT-72	P-17	鉢	ほぼ完形	15.5	5.4	5YR7/4 にぶい橙色	良好・赤褐色粒　長石	良好	ケズリ-ナデ	ヨコナデ-ヘラミガキ	無	無	口縁ほぼ完形、煤付着	44	
16	4	遺構外	P-1	壺	頸部-胴部	不明	不明	5YR6/6 橙色	精良・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ-ハケ	ヨコナデ	無	無	肩部内面に粘土を足しユビオサエ	24	2
16	6	遺構外	P-2	鉢	完形	15.8	8.8～8.2	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英　雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ-ナデ	ヨコナデ	有	無	口縁やや歪む	24	1
16	7	遺構外 B-1区	P-33	甕	胴部	不明	不明	7.5YR4/2 灰褐色	良好・赤褐色粒　長石　石英	良好	タテハケ	ヨコハケ	無	有	内面に朱、外面にも？	58	2
16	8	遺構外 C-1区		甕	胴部	不明	不明	10YR8/2 灰白色	やや精良・長石	良好	ヨコハケ	ヨコハケ	無	無	内面に朱	58	3
16	10	遺構外 C-1区		小皿	完形	9.5	2.1	N4/ 灰色	精良	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	瓦器	57	1
16	15	遺構外	P-5	ミニチュア	破片	直径1.3	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石	良好	タテハケ		無	無	つまみか、穴貫通	56	3
16	16	遺構外	P-4	土製勾玉	ほぼ完形	直径1.0	長さ2.9	10YR8/3 浅黄橙色	やや精良・角閃石	良好	ユビオサエ		無	無	3.5g、穴なし	56	4
16	17	遺構外	P-2	ミニチュア	脚部	2.5	不明	2.5YR5/1 黄灰色	良好・角閃石　長石	良好	ユビオサエ	ユビオサエ	無	無	杯部か	56	5

54次調査

図	番号	遺構名	P番号	器種	部　位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外　面	内　面	黒斑	煤	備　考	実測図	番号
19	1	1号住	P-5	ジョッキ	取手・底なし破片	(12.6)	16.5	7.5YR8/6 浅黄橙色	精良・長石　石英　雲母	良好	ナデ-ハケ	ヨコナデ-ハケ	無	有	発色悪い、二次的な被熱？内器面にしぼり痕	7	
19	2	1号住	P-4	甕	口縁-胴部	(17.6)	不明	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好・赤褐色粒　長石	良	ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	有	無	外面は指頭圧痕が多い	6	1
19	3	1号住	P-6	鉢	ほぼ完形	12.8	14.7	10YR8/3 浅黄橙色	良好・角閃石　長石　雲母	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	有	無	ゆがむ	6	3

表7　54次調査　遺物観察表

図	番号	遺構名	P番号	器種	部　位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外　面	内　面	黒斑	煤	備　考	実測図	番号
19	4	1号住	P-7	鉢	ほぼ完形	(12.0)	8.6	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ヘラミガキ	有	無	丁寧なつくり	6	2
20	1	2号住	P-2	甕	口縁	不明	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好・角閃石　長石　石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ- ナナメハケメ	無	無		8	2
21	1	3号住	P-3	蓋杯	ほぼ完形	(13.0)	4.4	7.5YR7/3 にぶい橙色	やや精良・赤褐色粒　長石	良好	ヘラミガキ- ヘラケズリ	ヘラミガキ- ヘラケズリ	有	無		5	3
21	2	3号住	P-3	杯身	ほぼ完形	11.1	3.8	5YR5/4　に ぶい赤褐色	やや精良・赤褐色粒　長石	良好	ヨコナデ- ヘラミガキ	ヨコナデ- ヘラミガキ	無	無		5	2
21	3	3号住	P-2	杯身	ほぼ完形	11.4	4.1	N2/ 黒色	精良・赤褐色粒　角閃石 長石	良好	ヘラミガキ- ヘラケズリ	ヨコナデ- ヘラミガキ	無	有	内面にヘラ記号「×」	5	1
22	1	土坑10		甕棺・上	完形	49.3	48.9	7.5YR7/6 橙色	良好・角閃石　長石　雲母	良好	ハケ	ハケ	有	無	下甕と同位置に キザミ突帯1	2	
22	2	土坑10		甕棺・下	完形	36.0	79.2	7.5YR7/6 橙色	良好・角閃石　長石　雲母	良好	タタキ-ハケ-ナデ	ハケ－ナデ	有	無	体部中位にキザミ突帯1	1	
24	1	遺構外	P-6	壺	口縁-底部	(22.0)	38.2	10YR6/2 灰黄褐色	やや精良・赤褐色粒　角閃石 石英　雲母	良好	ヨコナデ- ナナメハケ	ヨコナデ-ハケ	有	無	54次で突出して 古い時期	3	
24	2	遺構外	P-5	壺	口縁	(11.2)	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好・赤褐色粒　石英　雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ- ナナメハケ	無	無		4	3
24	3	遺構外	P-9	鉢	完形	10.3	5.8	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや精良・長石　石英　雲母	良好	ハケ-ナデ- ナデ消し	ヨコナデ-ハケメ	無	無		8	1
24	4	遺構外 A区東半		ジョッキ	取手	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙色	やや精良・角閃石　長石 雲母	良好	ヨコナデ- タテナデ	ヨコナデ- タテナデ	無	有		11	1
24	5	遺構外 C区		ジョッキ	胴部-底部	不明	不明	10YR6/2 灰黄褐色	良好・赤褐色粒　角閃石 長石　石英	良好	ナナメハケ	ナナメハケ -ヨコナデ	無	無		11	2
24	6	遺構外 C区西ST		器台か	破片	不明	不明	7.5YR8/4 浅黄橙色	やや精良・角閃石　長石 石英　雲母	良好	ミガキ-ヘラ沈線	ナデ	無	無	透かし孔3	14	1
24	9	遺構外 C区南ST		壺	口縁	30.0	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好・角閃石　長石　石英 雲母	良	ナデ	ナデ	無	無	赤色顔料付着 ベンガラ	13	3
24	10	遺構外 C区	P-61	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	5YR6/2 灰褐色	良好・長石　石英	良好	ナデ	ナデ	無	有	朱	13	2
24	11	遺構外 B区西半		赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	5YR6/2 灰褐色	やや精良・角閃石　石英	良	ハケ	ハケ	無	無	内外面にベンガラ	12	5
24	12	遺構外 B区		赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好・角閃石　長石　石英	良	摩滅	摩滅	無	無	内面わずかに付着、 朱か	12	3
24	13	遺構外 C区西半		赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好・長石　雲母	良好	ナデ	ナデ	無	有	朱	13	1
24	14	遺構外 A区西半		赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	10YR8/2 灰白色	やや精良・角閃石　石英	良好	タテハケ	タテハケ	無	有	朱	12	1
24	15	遺構外 B区西ST		赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	7.5YR6/1 灰褐色	良好・角閃石　石英　雲母	良好	タテハケ	ハケ	無	有	朱	12	4
24	16	遺構外 A区西半		赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	5YR6/2 灰褐色	やや精良・　長石　石英	良好	タテハケ	ハケ	無	有	朱、濃い	12	2
24	18	遺構外 北STA区		縄文土器	胴部？	不明	不明	10YR6/2 灰黄褐色	良好・角閃石　長石　石英	良好	押型文	ヘラ-ナデ	無	無	やや摩滅	10	2
24	19	遺構外		縄文土器	破片	不明	不明	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好・角閃石　雲母	良好	貼付線文 (タテ・ヨコ)-ヘラ	ヨコナデ	無	無	型式不明	10	1
24	20	遺構外	P-4	縄文土器	破片	不明	不明	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好・赤褐色粒　石英　雲母	良好	複節縄文	ヨコナデ- ユビオサエ	無	無	中国地方中期の 船元式か	8	3
24	21	遺構外	P-9	皿	脚部	不明	不明	7.5YR8/2 灰白色	やや精良・角閃石　長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無		4	1

53次調査

図	No.	器種・部位	出土地・遺構	長さ	幅	厚さ	重量	備　　考	実測図	No.
11	4	砥石	7号住、S-1	16.1	7.4	5.5	80.0	三面使用	60	
11	4	軽石製支柱	8号住、S-3	22	8.8	8.8	88.0		59	2
14	11	砥石	遺構外	5.3	4.2	3.7	123.0	五面使用	56	1
15	16	軽石製支柱	落ち込み77、S-1	21.8	8.4	11.9	116.0	熱を受け赤変、部分的に白粘土付着、116g	59	1
16	11	土錘	遺構外　A-4区、P-3	4.5	1.2	—	5.0	10YR8/3　浅黄橙色、3/4残	57	4
16	12	土錘	遺構外　C-1区、P-1	4.5	.85	—	2.7	5YR5/6　明赤褐色、ほぼ完形	57	3
16	13	土錘	遺構外　C-1区	4.8	1.2	—	5.7	7.5YR6/4　にぶい橙色、ほぼ完形	57	2
16	14	土錘	遺構外　B-1区	3.4	1.15	—	4.3	10YR7/3　にぶい黄橙色、完形	57	5
16	18	ガラス玉	遺構外	—	3.5	2.8	—	完形、水色、ややゆがむ	58	5
16	19	ガラス玉	遺構外	—	4.65	3.5	—	完形、濃青色	58	4
16	9	石包丁	遺構外	(9.4)	4.1	0.6	51.2	穿孔直径0.6	56	2
17	20	袋状鉄斧	C-2区、FE-19	6.5	4.7	—	77.0	刃部欠損か	61	15
17	21	袋状鉄斧	B-1区、FE-6	6.0	3.0	—	32.8		61	6
17	22	ヤリガンナ	B-4区、FE-10	4.0	1.2	3.0	4.0	先端欠損	61	8
17	23	鏃	A-4区、FE-3	5.2	3.0	0.4	13.3	無茎	61	3
17	24	釘か	C-4区、FE-15	7.2	1.0	0.9	6.0	錆進行	61	12
17	25	釘か	B-3区、FE-14	2.5	0.6	0.6	3.2	錆進行	61	11
17	26	金具か	A-4区、FE-17	0.8	1.5	0.2	0.9		61	14
17	27	棒状	A-4区、FE-2	2.3	0.5	0.5	1.3	両端欠損か	61	2
17	28	不明	A-4区、FE-16	3.2	1.0	0.4	3.4	両端欠損	61	13
17	29	不明	B-4区、FE-4	3.0	1.0	0.3	2.6		61	4
17	30	不明	A-4区、FE-5	4.0	1.5	0.8	6.7		61	5
17	31	不明	B-4区、FE-11	5.8	0.5	0.6	4.2	完形か	61	9
17	32	不明	C-2区、FE-12	2.2	0.9	0.3	1.1	両端欠損	61	10
17	33	不明	B-4区、FE-8	3.2	1.0	1.0	4.0		61	7
24	7	石棺片	遺構外	12.5	8.5	4.0	660.0	わずかにベンガラ付着　部位不明	9	2

54次調査

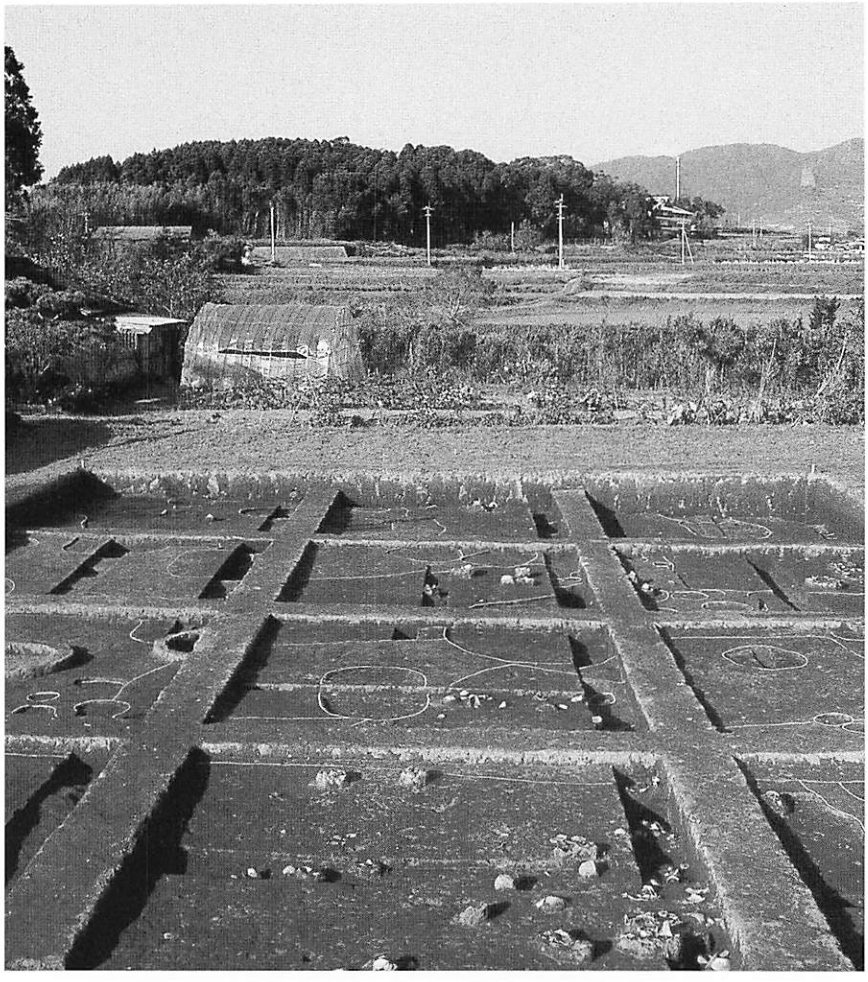
図	番号	器種・部位	出土地・遺構	長さ	幅	厚さ	重量	備　　考	実測図	番号
19	5	砥石	1号住、S-2	11.8	7.3	3.7	46.0	一面使用	15	2
19	6	砥石	1号住、S-3	10.2	8.7	1.4	20.0	二面使用	15	3
19	7	砥石	1号住、S-1	9.5	6.8	2.5	32.0	三面使用	15	1
24	8	磨り石	遺構外	10.2	7.6	6.4	630.5	自然石　一面にベンガラ付着	14	2
24	17	鉄片	A区土坑32	1.9	1.8	0.2	1.4	両端欠損　刀子か	17	
24	22	土錘	遺構外　西ST	4.6	1.3	1.2	4.6	10YR8/3　浅黄橙色	10	3
24	23	石鍋口縁	遺構外	—	—	—	—	2.5YR6/1　黄灰色	9	1
24	24	石鍋底部	土坑7、S-2	—	—	—	—	N2/　黒色、内面に炭化物付着	16	

表8　53・54次調査　遺物観察表

調査地遠景（南から撮影）

調査地全景（上が北　右：53次調査区　左：54次調査区）

図版２　53次調査　遺構



調査区全景（南西から）

調査区全景（南から）

図版３　53次調査　遺構

２・３区（東から）

調査区全景（北から）

図版４　53次調査　遺構

調査区西壁（北東から）

Ｂ－４区２号住居　遺物出土状況（東から）

Ａ－４区土坑SK-69（東から）

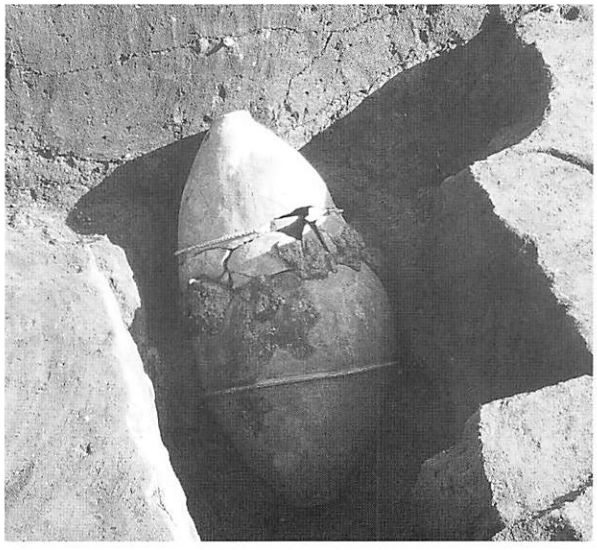
調査区全景（南から）

１・２区（南東から）

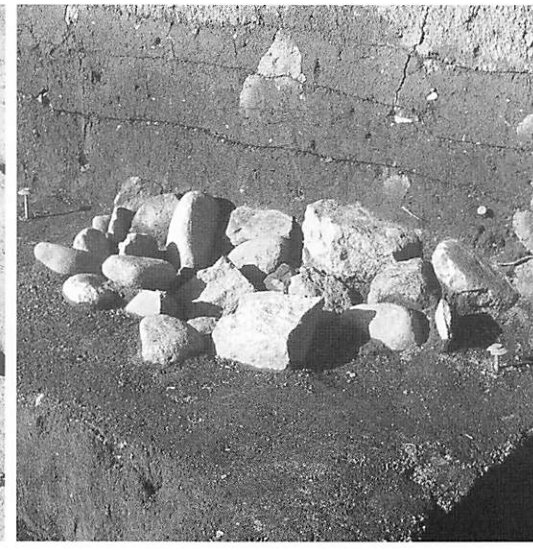
図版６　54次調査　遺構

Ａ区１号住居（東から）

Ｃ区３・４号住居（南東から）



Ｂ区土坑SK-10（甕棺）（北から）



Ａ区集石遺構（東から）

9

13

10

18

22

17

24

図版８　53・54次調査　遺物

53次

落ち込み 77　6

53次

落ち込み 77　2

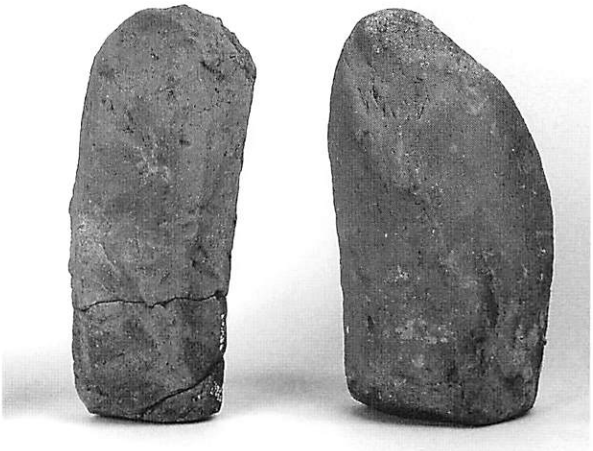
53次

落ち込み 77　7

54次

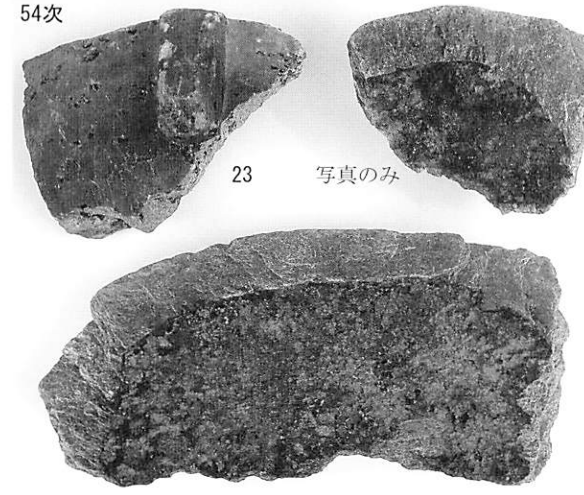
1 号住居　1

53次



8 号住居　4　　落ち込み 77　16

54次



23　写真のみ

24

報告書抄録

ふりがな	かとうだ　ひがしばる　いせき
書名	方保田東原遺跡 10
副書名	平成16年度国庫補助事業　遺跡内容確認調査報告書
シリーズ名	山鹿市文化財調査報告書
シリーズ番号	第7集
編著者名	宮崎　歩
編集機関	山鹿市教育委員会
所在地	〒861-0382　熊本県山鹿市方保田128（出土文化財管理センター） 電話0968-46-5512
発行年月日	2008年3月31日

所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
方保田東原	熊本県山鹿市 方保田字東原 35・41-1番地	43208-179	32° 59′ 53″	130° 43′ 04″	2004.10.5-12.27	300㎡ 120㎡	内容確認

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
方保田東原 53次	集落	弥生～ 古墳 平安	住居13 土坑 溝	土器 （弥生土器、古式土師器、須恵器、土師器） 鉄製品 赤色顔料関連遺物 （朱・ベンガラ付着土器、磨り石）	
54次			住居 4 小児用甕棺 1		遺跡で三地点目の甕棺

山鹿市文化財調査報告書第７集

方保田東原遺跡 10

平成 20 年 3 月 31 日

編　集　山鹿市教育委員会･文化課
熊本県山鹿市方保田128
山鹿市出土文化財管理センター内

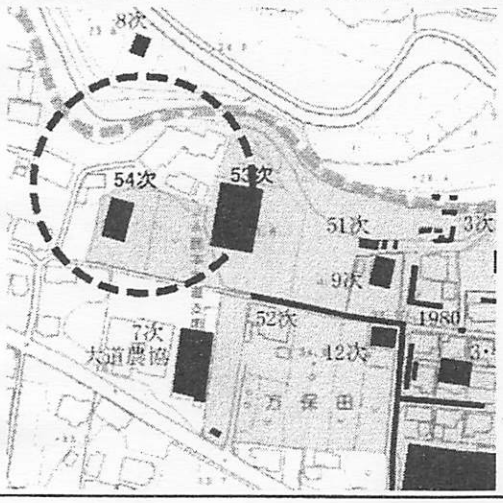
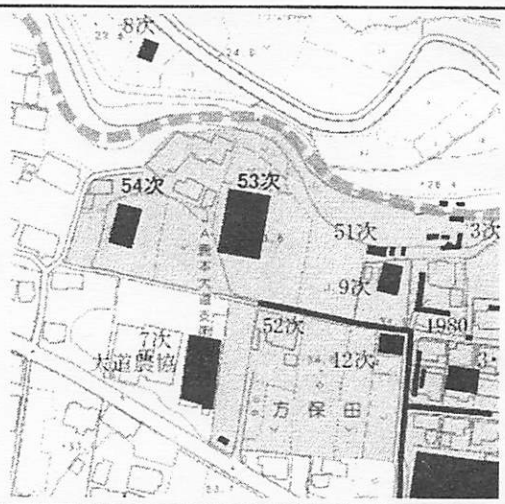
発　行　山鹿市教育委員会
熊本県山鹿市山鹿1026-2

印　刷　株式会社 トライ
熊本県鹿本郡植木町味取373-1

正誤表

『方保田東原遺跡10』山鹿市教育委員会、2008

下記部分（史跡指定範囲）に誤りがありましたので、訂正をお願いします。

場所	誤		正
1頁 第1図		→	
2頁 第2図		→	

◎問合せ先
山鹿市教育委員会文化課
（出土文化財管理センター）
〒861-0382山鹿市方保田128
T/F. 0968-46-5512

正誤表

『方保田東原遺跡(10)』 山鹿市文化財調査報告書 第7集 熊本県山鹿市教育委員会2008年

文中

頁	左右	行 図番	誤	正
15	左	13	(第15図16)	(第14図16)
15		第12図	土坑18	土坑81
18		第15図8	朱	ベンガラ
26		第24図	7・8・9記入漏れ	7・8・9ベンガラ
26		第24図	11 ベンガラ	11 朱
26		第24図24	記入漏れ	SK-7

土器観察表

頁	図	番号	誤	正
27	7	2	備考 脚部完形	削除
29	14	1～10	図 14	図 13
29	15	1～6	図 15	図 14
30	15	7～15	図 15	図 14
30			図 15-10	図 14-11
30			図 15-11	図 14-10
30	16	1～17	図 16	図 15
30	16	5	記載漏れ	下表を挿入
30	16	8	備考 内面に朱	備考 内面にベンガラ
32	11	4	7号住居	6号住居
32	14	11	図 14	図 13
32	15	16	図 15	図 14
32	16	9. 11～14. 18. 19	図 16	図 15
32	17	20～33	図 17	図 16
32	24	7		54次調査の表へ

図	番号	遺構名	P番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面	内面	黒斑	煤	備考	実測図	番号
15	5	遺構外 A-1区	P-1	壺	頸部-底部	-	-	5YR6/6 橙色	良好・赤褐色粒・角閃石・長石・雲母	良好	タテヘラミガキ-櫛描文 -ヨコヘラミガキ	タテヘラミガキ-ヨコナデ-ヘラ調整-指ナデ	無	無		54	

文化財調査報告の電子書籍の末尾に挿入する奥付

　この電子書籍は、『山鹿市文化財調査報告第7集　方保田東原遺跡 10』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

　底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

　なお、平成 17 年（2005）に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町が合併し山鹿市となりました。調査記録及び出土遺物は、山鹿市教育委員会が保管しています。

書名：山鹿市文化財調査報告第7集　方保田東原遺跡 10
発行：山鹿市教育委員会

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番 3
電話： 0968-43-1651
URL：https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/

電子書籍制作日：2025 年6月 19 日